

令和5年度（令和4年度対象）
南あわじ市の教育 点検・評価
報告書



令和5年8月

南あわじ市教育委員会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

も く じ

はじめに	1
点検・評価の概要	2
体系表	3
点検・評価結果	5
基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進	6
(1) 「確かな学力」の育成	7
(2) 「豊かな心」の育成	11
(3) 「健やかな体」の育成	14
(4) 特別支援教育の推進	18
(5) キャリア教育の推進	20
(6) 幼児期における教育の充実	23
(7) 南あわじ市の防災教育の推進	27
基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築	30
(1) 教職員の資質・能力の向上	31
(2) 学校の組織力の強化	33
(3) 安全・安心な教育環境	35
(4) 家庭と地域による学校と連携した教育の推進	37
(5) 人権文化をすすめるまちづくり	41
基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生	46
(1) 主体的に生きるための学びと場の充実	47
(2) 伝統文化（芸術）の伝承と発展	53
(3) スポーツに親しむ環境づくり	57
評価委員の意見	60

はじめに

令和元年末に発生した新型コロナウイルス感染症は、世界の人々の日常生活に大きな影響を与えました。日本においては感染者全員入院、国民の行動制限、社会経済活動の制限など様々な政策が展開されました。令和3年12月末より新型コロナウイルスの変異株であるオミクロン株の流行が始まり、翌年2月には全国で10万人以上の感染者を記録しました。

このような状況のもと、令和4年度は7月に教員免許更新制度が廃止され、教員の資質の向上を目的とした新たな研修制度が始まりました。また、「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂され、同年12月に公表されました。その中で、いじめ、インターネット問題や、性的マイノリティ、発達障害、ヤングケアラー、貧困等の多様な背景を持つ児童生徒への配慮、校則の見直し等について言及されました。

本市及び本組合の教育は、令和3年度から導入した児童生徒1人1台のタブレット端末及び電子黒板のさらなる活用で学校におけるICT環境の整備が進み新たな学習活動が展開される中、情報モラル教育の充実が求められています。

一方、令和4年7月には、平成27年4月に出土した「松帆銅鐸」が科学的な調査を終え、滝川記念美術館「玉青館」で全7点そろって初めての展示を実現させました。同年11月には、阿万の風流大踊小踊（あまのふりゅうおおどりこおどり）が風流踊りの一つとしてユネスコの無形文化遺産に登録されるなど、大変喜ばしいニュースもありました。

教育委員会においては、令和2年度から5か年計画として「第3期南あわじ市教育振興基本計画」を策定しています。令和4年度は、本計画に基づき「南あわじ市の教育方針」を定め、「学ぶ楽しさ日本一」をテーマに、誰もが「学ぶ楽しさ」を追求し、実感できる取組を学校、家庭、地域で推進してまいりました。

「学ぶ楽しさ日本一」を実現するために、教育に携わる者を中心に「ほめること」を大切にすることで、「自己肯定感」を高められるよう取り組んでいます。

さらに、「読解力」を核にしながら、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力、創造力、やり抜く力など様々な資質や能力を向上させ、「なりたい自分になれる」ように、サブテーマである「夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり」を進めるため、それぞれの事業を推進してまいりました。

これらの諸事業を適切に執行するには、各事業が効率的かつ有効的に行われているかを、随時、点検・評価をしていくことが必要であると考えます。加えて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条には、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならない」と規定されています。

こうしたことから、教育委員会では、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民のみなさんへ説明責任を果たすため、「南あわじ市の教育方針」に基づき、令和4年度に実施した主な事業について点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

令和4年度の点検・評価にあたっては、評価内容の客観性を確保し、事業の実施等に対する成果と課題を明らかにするため、学識経験者のみなさまのご意見をいただいております。今後の教育行政に反映させていきたいと考えております。

南あわじ市教育委員会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

点検・評価の概要

点検・評価の対象

「第3期南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」の基本理念に基づいて令和4年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、83の主な取組を点検・評価の対象としました。（対象事業一覧は次のページに掲載）

点検・評価の方法

「第3次南あわじ市教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）」及び「令和4年度南あわじ市の教育方針」を基に、教育委員会で自己点検評価資料をまとめました。

教育に関する事務の点検及び評価委員会を開催し、学識経験者3名の方を評価委員としてお招きし、自己点検評価資料等に対してご意見、ご助言をいただきました。

委員会の内容をとりまとめ、最後に「評価委員の意見」を掲載した報告書を作成しました。

報告書の公表

報告書は、市議会及び組合議会へ提出すると共に、関係機関及び市内小中学校への配付、ホームページへの掲載を行いました。

第3期南あわじ市教育振興基本計画(令和2年度～令和6年度)
めざす教育の姿 体系表

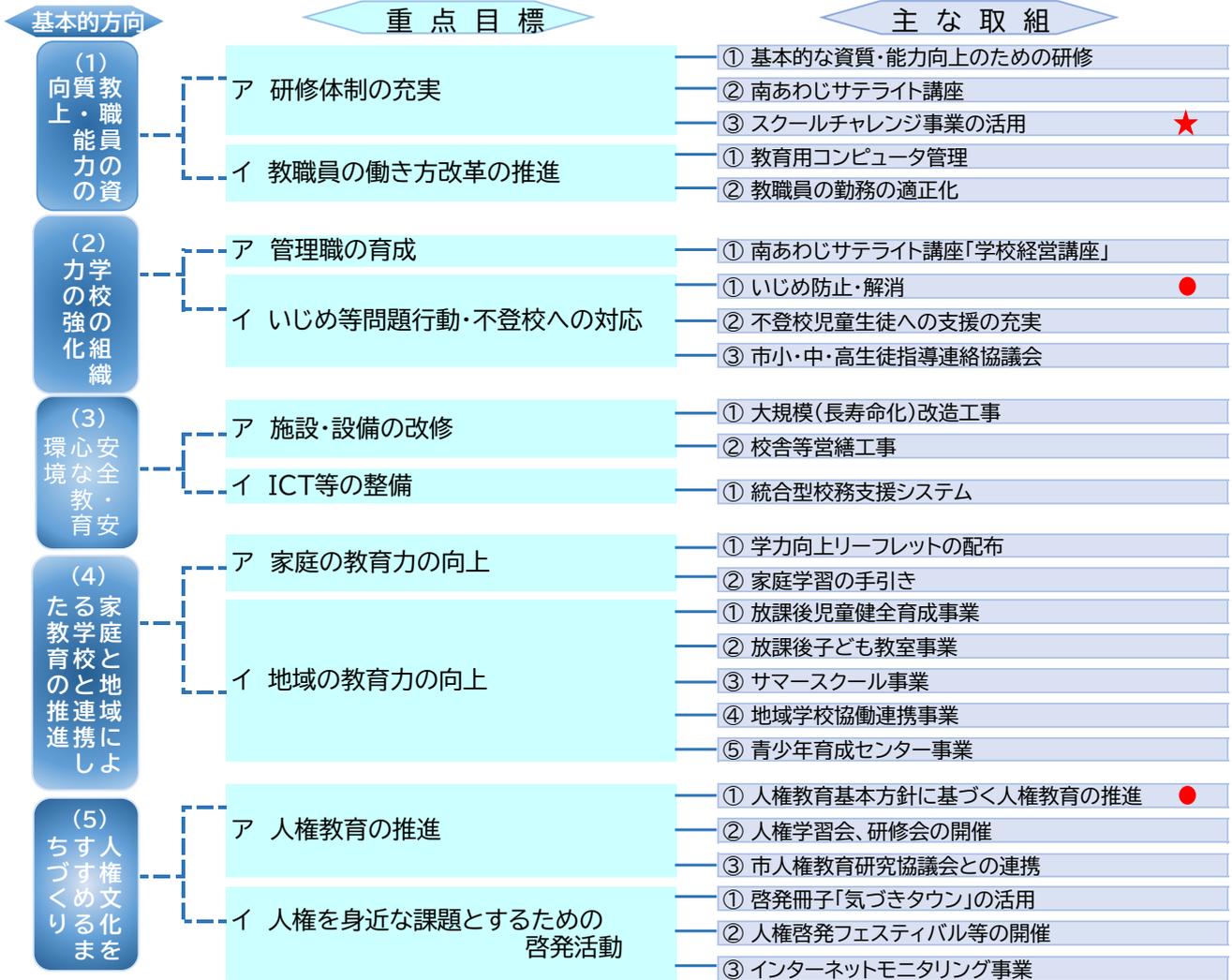
学ぶ楽しさ日本一
～ 夢と志を持ち、ふるさと南あわじの未来を創る人づくり ～

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進
基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築
基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

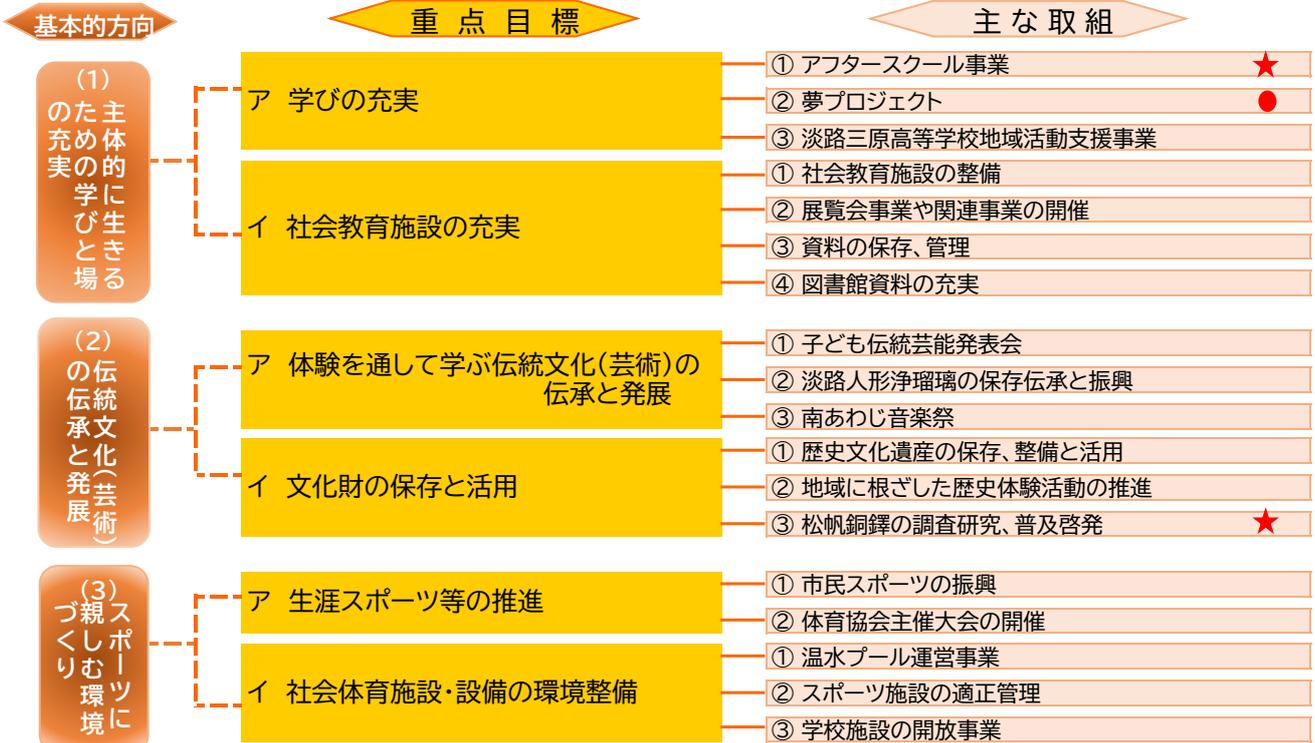
基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向	重点目標	主な取組
(1) 「確かな学力」 の育成	ア 学力向上の推進	① 「読解力」の向上 ● ② 基礎基本の徹底 ③ コアカリキュラム ★ ④ 読書習慣づくり ●
	イ 国際理解を深める教育の推進	① ALT・STを活用した外国語の授業 ② 「COOL AWAJI」の活用
	ウ 情報活用能力の育成	① プログラミング教育 ② GIGAスクール構想事業 ●
(2) 「豊かな心」 の育成	ア 道徳教育・人権教育の推進	① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト ② 兵庫版道徳教育副読本の活用
	イ ふるさと意識を醸成する教育の推進	① 副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用
	ウ 兵庫型「体験教育」の推進	① 環境体験学習 ② 自然学校
(3) 「健やかな体」 の育成	ア 体力・運動能力向上の推進	① 運動能力テスト ② 体力アップサポート事業
	イ 食育の推進	① 食育推進事業 ② 食育チャレンジ
	ウ 健康教育・安全教育の推進	① 避難訓練 ② 着衣水泳
(4) 特別 支援 教育	ア 連続性のある多様な学びの充実 (縦の連携)	① 個別の教育支援計画 ② 授業のユニバーサルデザイン化 ③ 中高連携シートの活用
	イ 一貫性のある支援体制の構築 (横の連携)	① 関係機関との連携 ② あわじ教育相談
(5) 教育の 推進	ア 体系的・系統的なキャリア教育の推進	① キャリアノート等の活用 ② 幼こ保・小・中・高の連携 ③ 小中一貫教育
	イ 社会に触れる機会の充実	① トライやる・ウィーク ② 夢プロジェクト ●
(6) 幼児 教育 の 充実	ア 幼児期における教育の質の向上	① 遊びから学びに繋がる体験活動 ② 本との出会いの場の提供 ③ 職員の研修
	イ 幼児期と児童期の円滑な接続	① 幼こ保小連絡協議会 ② 交流活動の充実 ③ 育児力の強化
(7) 南あ わじ 市の 推進	ア 防災教育の充実	① 防災ジュニアリーダー養成事業 ★ ② 防災出前授業 ③ 自然学校「防災学習」
	イ 学校防災体制の充実	① 学校防災マニュアルの作成 ② 避難所運営部会

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築



基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生



★第3期南あわじ市教育振興計画の特色ある取組 ●令和4年度重点取組

点検・評価結果

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

対象事業 40項目

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

対象事業 25項目

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

対象事業 18項目

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

基本的方向2 「豊かな心」の育成

基本的方向3 「健やかな体」の育成

基本的方向4 特別支援教育の推進

基本的方向5 キャリア教育の推進

基本的方向6 幼児期における教育の充実

基本的方向7 南あわじ市の防災教育の推進

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

基本的方向1

「確かな学力」の育成

【重点目標】	【主な取組】	
ア 学力向上の推進	① 「読解力」の向上 ② 基礎基本の徹底 ③ コアカリキュラム ④ 読書習慣づくり	● ★ ●
イ 国際理解を深める教育の推進	① ALT・STを活用した外国語の授業 ② 「COOL AWAJ」の活用	
ウ 情報活用能力の育成	① プログラミング教育 ② GIGAスクール構想事業	●

「読解力」の向上

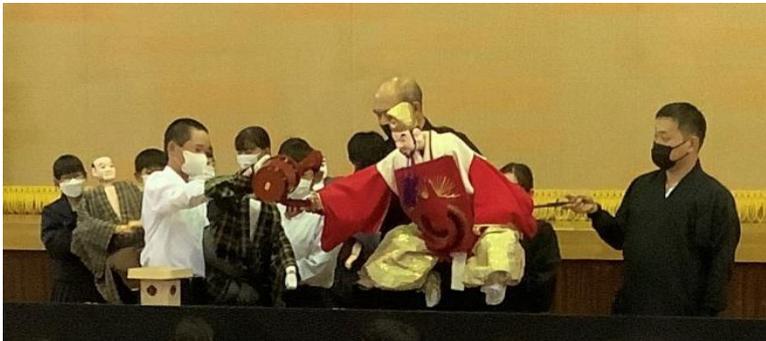
担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」を支える読解力の向上に向けて、教科書を読み解いたり、言葉の意味の違いに気づいたり、図・グラフ等から関係性を読み解くなどの学習活動を充実させる。また、読書活動と連携し「読解力」の基礎となる読書の習慣化を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 スクールチャレンジ事業などを通して、児童生徒の、思考力・判断力・表現力等を把握し、「ことばの力(言語に関する能力)」の育成を図る学習活動の在り方について、各校において研究を進めることができた。その上で、各教科等では、「記録」「要約」「説明」「論述」等の言語活動を充実させた授業改善が図られてきており、児童生徒自身が文章を要約したり、考えを説明する力がついてきている。</p> <p>【課題】 教員自身が「読解力」を理解し、育みたい力を明らかにしながら授業を組み立てることが重要である。そのためには、目標に則した評価方法を明確にし、指導方法の工夫改善に取り組むなど、指導と評価の一体化を図り、PDCAサイクルを循環させる必要がある。</p>

基礎基本の徹底

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学習の基礎基本の定着をめざし、授業外の学習タイムを設け各校で取り組んでいる。がんばり学びタイムでは、小中学校16校において、地域人材を活用し、授業中・放課後の学力向上方策に取り組んでいる。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 授業外の学習タイムは、市内すべての小中学校で実施している。各校とも、児童生徒の実態に合わせて対象学年や日数を決定し実施した。がんばり学びタイムでは、授業中の学習支援と放課後の補充学習を行っており、多くの学校で支援体制の充実が図れた。特に、放課後は、基礎学力定着を目指して漢字や計算等の練習に重点を置くとともに、主体的に取り組めるような発展的な問題を用意し、個々の到達度に応じて個別指導を行うなど方法や場の工夫をしている。</p> <p>【課題】 個々のつまづきに応じた個別指導を行うとともに、児童生徒が主体的に取り組める発展問題等を用意するため、学習教材の準備に時間がかかる。また、児童生徒理解のために担任と指導員の打ち合わせ時間を確保するためにも、学校の実態に合わせた運営上の工夫が必要である。</p>

コアカリキュラム

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>南あわじ市コアカリキュラムは、淡路人形浄瑠璃を題材に、育成すべき資質・能力の明確化と小中学校9年間の達成レベルやルーブリック評価を設定した授業設計（各学年10時間以内）となっている。設計には2年をかけ、実施検証が4年目となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全校において小1から中3までカリキュラムを実施し、振り返りシートと成果物を集めた。 ② 検証（小2、小4、小6、中2）として倭文小学校・広田小学校・広田中学校で公開授業を行った。 ③ 各校の実施状況やiPadの活用状況を取りまとめた。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 全校から教員の振り返りシートを集め分析したところ、コアカリキュラム担当以外の若手教員に育成すべき資質向上についての記述が見られるようになった。これはコアカリキュラムの本質が伝わり、広まってきていると言える。ブラッシュアップ研修では授業の検証をする中で、ICTの活用を組み入れたカリキュラム改訂を実施することができた。また振り返りシートの見直しを図り、学校の枠を超え横のつながりを強化する目的で、学校単位から各学年単位でのシートを作成することができた。</p> <p>【課題】 ルーブリック評価にて評価基準は全学年全授業で決まったものを使用しているが、毎時間同じ評価基準で評価するのは難しい。全授業それぞれのルーブリック評価が必要になってくる。コアカリキュラムは、9年間の学習の積み上げなので、毎年児童生徒の実情に合わせて、少しずつカリキュラムや評価等の微調整が必要になってくる。</p>



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

読書習慣づくり

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	各学校において、「朝の読書」「すき間読書」「読み聞かせ」「読書カードの活用」「家庭との連携」等、工夫した取組を行った。また、すぐに本を手にとれるよう学級文庫を充実させ、学校図書館に児童生徒の興味関心が高い新刊を意識的に入れる等、環境整備を行った。また、全小中学校において、講師を招聘して、読書活動における指導の在り方についての教職員研修を実施した。 学校司書を2人配置した。(松帆小学校、志知小学校、福良小学校、西淡中学校、南淡中学校)
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 講師を招聘し、助言をもとに学校図書館をリニューアルしたり、選書をしたり、図書の配架を工夫したりする等、子どもたちが行きたくなる学校図書館の環境整備を図ることができた。また、読み聞かせ活動等の充実により、子どもたちに「読書する楽しさ」を感じさせる工夫が各校において見られた。さらに、学校司書配置校を増やし、司書が担任と連携することにより効果的な取組が進んだ。</p> <p>【課題】 各校の実情に応じて、子どもたちが読みたくなる本選びが重要である。児童生徒が足を運びにくい場所に学校図書館が位置している学校もあり、読みたい本がすぐに手に取れるような工夫が必要である。また、各校において「うちどく」の方法を工夫する等、家庭と連携した読書習慣づくりを進めていく必要がある。</p>



ALT・STを活用した外国語の授業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小学校において、担任や専科教員は授業の全体像を把握して授業を進め、外国語指導助手(ALT)はネイティブスピーカーが英語を話すモデルとして、外国語活動支援員(ST)は授業計画への助言や授業中の支援者として、コミュニケーション能力の基礎を育む外国語の授業をよりスムーズに進めている。 中学校においてもALTを配置し、外国語でコミュニケーションを図る機会を設けた。幼稚園、こども園、保育所、小学校低学年においても外国語に慣れ親しむことを目的として、ALTを派遣し、ゲームや歌、遊び等を主体とした外国語活動を行った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校において、担任とALT・STが入って行う3人体制の外国語の授業が定着してきた。苦手意識がある児童に対しては、STが関わることできめ細やかな支援が可能となり、意欲を引き出すことができるようになってきている。ALTとSTの導入部分の発音指導や文字指導は、特に効果を上げている。また、小学校、中学校のALTとSTも授業研究等に参加し、授業モデル案作りや教材作りに取り組むことにより、小中の接続に見通しをもつことができた。STは、英語の指導経験の浅い教員の支えとなっている。中学校においてもALTのネイティブスピーカーの英語に触れることにより、外国語でのコミュニケーションに意欲的に取り組むことができた。</p> <p>【課題】 専科教員の配置により、指導体制の見直しや小中連携の充実が必要となっている。また、デジタル教科書を使った授業展開の工夫やALT・STを効果的に活用した指導計画、方法の研究を進めていく必要がある。</p>

「COOL AWAJI」の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	ALTとSTが作成した淡路島の名所や特産物を、英語で紹介する外国語活動の副読本(テキスト)と動画を授業等で活用し、英語力の向上を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各校にテキストを配り、動画の視聴を勧めた。南あわじ市のホームページに動画を掲載し、テキストはダウンロードできるようにして、家庭学習にも活用することができた。またYouTubeにも動画を掲載し、再生回数を見てみると、『モンキーセンター』は約8,200回の視聴があった。動画については1つ1つの動画が非常に短くまとめられていて、テキストも使いやすいものになっており、外国語でふるさとを発信する際の資料やモデルとしても活用できる。</p> <p>【課題】 活用状況の把握と、活用方法の提案等、有効活用に向けた対策が必要である。小学校高学年や中学生は視聴するだけではなく、外国語でふるさとを発信することにつながるような活用方法を考えていく必要がある。</p>

プログラミング教育

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和元年度に作成した南あわじ市全体計画をもとに、令和2年度から全小学校で、令和3年度からは全中学校でプログラミング教育を実施している。また、令和4年度は、プログラミング的思考や情報活用能力等を系統的に育成していくために作成した全体指導計画の見直しを実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校では、すでに4人に1台のプログラミング教材を導入し、引き続きビジュアルプログラミング言語「Scratch」を使用して、論理的思考力の向上を図ることができた。中学校においては、1人1台のプログラミング教材を使用し、令和3年度、担当者により作成された年間指導計画や評価、ワークシート、授業の進め方等を振り返り、改善を図った。</p> <p>【課題】 授業の進め方、児童生徒への指導の方法、そして、評価等各校だけの振り返りにとどまらずに、市内全体で振り返りを共有し、全体指導計画を定期的に見直す必要がある。また各校の取組の進捗状況や成果物をいつでも共有できる体制を整え、教師の資質向上を市内全体で図る必要がある。</p>

GIGAスクール構想事業

担当課	教育総務課・学校教育課
事業内容・実施状況等	多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを提供するため、1人1台のタブレット端末や電子黒板、AIDリルや授業支援ソフトを活用し、思考力や情報活用能力の向上を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和4年度は、全学年全クラスで計画的に持ち帰りを実施した。必要に応じてオンライン授業も実施。防災訓練では、タブレット端末でクラスごとに安否確認を実施することができた。また、指導者用デジタル教科書はもちろん、学習者用デジタル教科書(外国語)の活用も推進することができた。</p> <p>【課題】 ICT機器の活用状況については学校や学年、クラスによって違いがあるが、令和3年度と比較して格差は縮まっており、使い方の変化が見られる。各学校では、必要に応じて自校の実情に合わせたタブレット端末等の使用に関するルール作りを実施している。タブレット端末は、5年更新で今回は令和7年度の更新を予定しているが、更新時の国からの補助金は確約されておらず、財源確保が重要な課題となる。国や県に対し、補助金の制度化の要望を行うとともに、財源確保の検討を進めていく。</p>

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向2

「豊かな心」の育成

【重点目標】

ア 道徳教育・人権教育の推進

【主な取組】

- ① 道徳教育と人権教育研究プロジェクト
- ② 兵庫版道徳教育副読本の活用

イ ふるさと意識を醸成する教育の推進

- ① 副読本「ふるさと淡路島」
「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用

ウ 兵庫型「体験教育」の推進

- ① 環境体験学習
- ② 自然学校

道徳教育と人権教育研究プロジェクト

担当課

学校教育課

事業内容・
実施状況等

小中学校9年間で共通テーマの人権教育教材を作成し、人権指導計画の検証・改善と充実を図るために、南あわじ市人権教育研究協議会と連携しながら人権教育授業研究会を実施した。人権教育授業研究会での学びを通して、教職員自身の人権意識の高揚や指導力の向上を図った。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 授業研究会について、小学校1、2年生は神代小学校で、小学校3、4年生は阿万小学校で、小学校5、6年生は広田小学校で、中学校1年生から3年生は西淡中学校で実施した。教材研究や指導案検討等、事前研究から時間をかけて充実したものとなった。小学校では、学年ごとの課題にすべて取り組むことができた。また、中学校では、令和3年度に引き続いて1年生で「LGBTQ」のテーマに取り組み、総合単元指導計画を立て集中的に学習を進めることができた。また、重点課題について見直しを行うなど、新たな人権課題への取組について、市全体で共通理解をすることができた。

【課題】 多様な性や新型コロナウイルス感染症に起因する人権侵害、タブレット端末やスマートフォン等によるインターネット上における人権侵害などの新たな人権課題の解決に向け、指導計画の検証や新しい教材開発、教職員自身の人権意識のさらなる向上が必要である。「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」の評価検証を行い、ブラッシュアップを継続しながら、教育活動を展開していく必要がある。

兵庫県版道徳教育副読本の活用

担当課

学校教育課

事業内容・
実施状況等

地域教材を盛り込んだ兵庫版道徳教育副読本を活用し、児童生徒が身近で親しみを感じ、「対話的で深い学びをめざす道徳」の授業づくりへの取組を進めた。

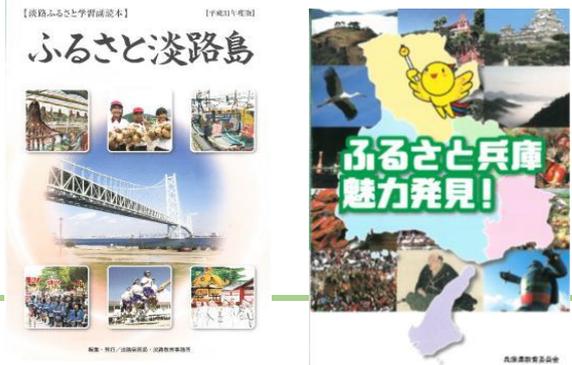
成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 全小中学校において、道徳の授業だけではなく、総合的な学習の時間やキャリア教育、ふるさと学習など学校教育全体で副読本を活用することができた。地域で活躍した偉人の話について考えることにより、人としての生き方、在り方を考える対話的で深い学びのある授業が展開された。日々の授業だけではなく、家庭に持ち帰り、家族で読み合う等、積極的に活用することができた。

【課題】 「兵庫版道徳教育副読本」の改訂に合わせて、デジタル教材の活用を含めた教材分析や指導方法の工夫等、さらなる効果的な活用を進めていく必要がある。

副読本「ふるさと淡路島」「ふるさと兵庫、魅力発見！」の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	淡路ふるさと学習副読本「ふるさと淡路島」、あわじ環境未来島副読本「みらい」、「ふるさと兵庫魅力発見！」を活用して、社会科や理科、総合的な学習の時間等に総合単元計画を立て、ふるさと意識を醸成し、系統的なふるさと学習を学校教育全体で取り組んだ。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 淡路ふるさと学習副読本は、児童生徒自身が、社会科や理科、総合的な学習の時間等で、淡路島の地理や歴史・文化等の調べ学習等に活用できた。また、自然学校や環境体験の前後に副読本を使って学習することで、知識と体験が結びつき、地域の良さやすばらしさを児童生徒が体感することができた。また、学校が地域との交流の窓口となり、地域の様々な人との触れ合いの中で、ふるさとの現状や課題を見つけ、解決しようとする子どもの姿が見られた。</p> <p>【課題】 自分たちのふるさとである淡路島について学習する中で、ふるさと意識を醸成し、地域への愛着をどのように育てていくかが課題である。また、ふるさとの良さを積極的に発信できるような力を育成していく必要がある。</p>



環境体験学習

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	市内の小学校において校外での環境体験学習を実施している。特に小学校3年生は、近くの山や川、池に行き、生物の観察を行ったり、田植え、稲刈りの実習をするなどの体験学習を3回以上実施し、校区の自然環境に触れながら、ふるさと意識を持ち、自然に対する畏敬の念や命のつながりの大切さを学ぶ取組を進めている。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各校区内の様々な自然環境に触れながら、地域住民や事業所の協力を得て、各地域の特色を生かした多様な体験活動を行うことができた。ふるさとの良さを改めて確認することができ、自然に対する畏敬の念をはじめ、命のつながりや大切さを学ぶことができた。</p> <p>【課題】 活動実施後のアンケート等を活用して、その後の児童の生活や学習にどう生かされたかを検証し、指導の改善に努めることが重要である。また地域の自然環境を活かした効果的な活動計画や、体験したことを発信する展開を想定した計画作りが必要である。</p>



自然学校

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>小学校5年生では、4泊5日の宿泊体験や多様なプログラムを通して、協調性・社会性やコミュニケーション能力を身につける。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各学校の実情に応じ、それぞれ5日間実施した。淡路青少年交流の家にてカッター研修や、沼島探検をした学校もあった。また、本市及び本組合では、各小学校の防災に関する体験プログラムを実施し、防災意識の高揚や命の大切さの学習を深めている。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 多様なプログラムを通して自然を体感するとともに、集団生活の中で協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている。また、校区内の防災施設を確認する防災ウォークラリーや災害時を想定した野外炊飯等防災学習を実施している学校もあり、体験活動を通して防災意識を高め、命のつながりを考えるきっかけとなった。</p> <p>【課題】 活動実施後のアンケート等を活用し、その後の児童の生活や学習にどう生かされたか検証し、事前事後を含めた指導の改善が必要である。また、児童や各校の実態に合わせ、様々な状況を想定した効果的な活動計画の作成や事前準備についての見直しが必要である。</p>



基本的方向3

「健やかな体」の育成

【重点目標】	【主な取組】
ア 体力・運動能力向上の推進	① 運動能力テスト ② 体力アップサポート事業
イ 食育の推進	① 食育推進事業 ② 食育チャレンジ
ウ 健康教育・安全教育の推進	① 避難訓練 ② 着衣水泳

運動能力テスト

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの測定項目である「握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ」を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 児童生徒にとっては、自身の体力や運動能力の状況を把握できる良い機会となった。また、教員にとっては、児童生徒の現状を理解した上で発達段階に応じた授業を計画及び実施することができた。</p> <p>【課題】 調査結果をもとに、児童生徒が自身の状況を把握するだけにとどまらず、自身の状況から課題を見つけ、主体的に取り組み、運動能力向上につなげていく必要がある。また教員は児童生徒の実情や発達段階に応じた授業を実施するとともに、そのような取組ができるよう授業内容を工夫する必要がある。</p>

体力アップサポート事業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	「体力アップひょうご」サポート事業の一環として、市内中学校の保健体育科教員を校区の小学校に派遣し、年間3回以上の体育授業を行い、体力向上の取組を進めた。南淡中学校教員を福良小学校に、沼島中学校教員を沼島小学校に、広田中学校教員を広田小学校に派遣し実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 福良小学校では3・4年生が器械運動、5・6年生が陸上運動の授業、沼島小学校では4・5・6年生が器械運動の授業、広田小学校では4・5年生が体づくり運動、6年生が陸上運動の授業を実施した。タブレット端末等を活用しながら、専門的な内容が学齢に合わせてわかりやすく行われ、児童も意欲的に取り組むことができた。</p> <p>【課題】 一時的な取組になるのではなく、日々の授業の実践や各学校での日常的な運動習慣づくり、そして児童の体力アップにつなげていく必要がある。また、小中の接続を意識しながら、体系的な体育のカリキュラムづくりを検討していくことも必要である。</p>



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向3 「健やかな体」の育成

食育推進事業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>学校教育全体で食育を実践している。「一年生保護者給食試食会」、「親子栄養教室」、「食育だよりの発行」等各校で特色のある取組を行っている。</p> <p>和食・地産地消・食のマナーなど学校給食を活用して食育に取り組むとともに、学校給食に地場食材を活用することで生産者の思いに触れ、ふるさとの味と食文化を継承していく。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 教科や特別活動等と関連づけながら、学校教育全体で食育を行っている。農業体験で育てた野菜で料理を作ったり、食生活改善推進員協議会（いずみ会）と連携して、地場産物を活用した料理作り等に取り組んだ。</p> <p>学校給食地場食材利用拡大推進事業では、6月は灘産びわ、7月はハモフライ、牛焼き肉、9月はサンちゃんカレー、12月は淡路島3市合同献立で市内産牛肉やブロッコリーなど学校給食で提供することができた。</p> <p>【課題】 家庭において、和食や伝統料理の継承が難しくなっている。手軽に食べ物が手に入る生活環境の中で、児童生徒だけではなく、家庭、地域に対しても、食に関する情報や淡路島の郷土料理を紹介、提供していくことが重要である。</p> <p>今後も学校給食において地場食材利用拡大を図りながら、生産者の思いに触れ、ふるさとの食材と食文化を継承することで、地域と学校との連携を深め、食育についてともに考える取組がさらに必要である。</p>



食育チャレンジ

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	「健康南あわじ21」を指針として、市内小学校(主に2年生)を対象に、「早寝早起き朝ごはん朝トイレ」の生活リズムを整える2週間のチャレンジ事業を継続することにより、生活習慣を整え、心も体も元気に毎日過ごす意識の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校15校全校で、「早寝早起き朝ごはん朝トイレアンケート」を実施することができた。2年生に関しては2週間のチャレンジの事前事後にアンケートを実施し、比較及び分析の結果、ほとんどの項目で改善がみられた。改善の多かった項目は 「早寝 夜は9時まで、ねていますか」の58.4%から70.0%へ、 「朝、学校に行く前にトイレ(ウンチ)に行きますか」は71.8%から80.4%へ 「テレビを消してごはんを食べていますか」の54.8%から67.6%へ、 「すききらいなく食べていますか」の78.6%から85.8%へ増加している。 また、今年度は15校全校の6年生に対して朝ごはん献立アンケートを実施し、本市の健康課栄養士が結果を分析しコメントすることで現状の把握、改善に役立てることができた。</p> <p>【課題】 同じ児童の2年生時と現在の学年時点でのアンケート結果とを比較すると、「朝食を食べている」割合は2年生当時96.5%であったが、6年生でも93.7%と高い結果になった。6年生の朝ごはん献立アンケートの結果は、3つの食品群からバランスよく食べられている割合は47.6%であり、約半数にとどまった。 今後も、「早寝早起き朝ごはん朝トイレ」の生活リズムやバランスの取れた食事について、2週間のチャレンジ事業や、アンケート回答を通じて、振り返りの機会をもてるよう、支援していく必要がある。</p>



基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向3 「健やかな体」の育成

避難訓練

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地震や津波、火災だけでなく、台風による大雨や土砂災害等、状況に応じた避難訓練、抜き打ちや様々な時間帯での避難訓練、幼稚園、こども園、保育所(園)との連携した合同避難訓練を実施し、想定外の自然災害等に生き抜く力の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各校ではコロナ禍での避難を意識した避難訓練が実施された。具体的には児童生徒間の距離をしっかりとる、手指消毒の徹底、場所によっては温度調整や換気の徹底、非常食は各自のもの食べる、食事中の会話に留意等である。実施の日時を知らせずに抜き打ちで行った避難訓練では、しゃべらず落ち着いた行動がとれていた。また今年度はタブレット端末を利用して、安否確認を実施することができ、状況把握に大変役に立った。避難訓練後には訓練の反省点や気づいた点を防災マニュアルに活かすようにしている。</p> <p>【課題】 様々な時間帯の訓練は実施しにくい、災害はいつ起こるかわからないことから時間を見つけて実施していくべきである。コロナ禍での避難を意識した避難訓練は、感染防止対策の徹底、避難場所の拡大、避難にかかる時間等、課題は山積している。また教職員の行動を詳細に確認する意味で、教職員だけの訓練も実施していく必要がある。これからは、児童生徒、教職員を含め、素早い情報収集力と冷静な判断力の向上がさらに必要である。</p>



着衣水泳

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	各小学校で着衣水泳を行い、水難事故にあった際の考え方や着衣の重さによる動きにくさを体験し、いざという時にあわてず落ち着いた行動がとれるようにしていく。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが学校の実状に合わせてプール水泳を実施することができた。着衣水泳については、十分な実技の実施ができない学校もあったが、資料や動画をもとに万が一に備えて、実際に着衣水泳をする際に、衣服と体の間に空気をためる等着衣水泳のポイントについて学習した学校もある。これにより、体力を温存し、身体を保温しながら、長く浮いたり泳いだりすることの大切さに気づくことができた。</p> <p>【課題】 校外施設活用のプール水泳実施に伴い、水難事故等防止に向けた着衣水泳などの実施に工夫が必要である。実際の水難事故や津波災害を想定したシミュレーションやICTを活用した活動等も考えていく必要がある。</p>

基本的方向4

特別支援教育の推進

【重点目標】	【主な取組】
ア 連続性のある多様な学びの充実 (縦の連携)	① 個別の教育支援計画 ② 授業のユニバーサルデザイン化 ③ 中高連携シートの活用
イ 一貫性のある支援体制の構築 (横の連携)	① 関係機関との連携 ② あわじ教育相談

個別の教育支援計画

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	個別の教育支援計画は、特別支援教育コーディネータが中心となって作成し、本人・保護者と合意した合理的配慮及び福祉や医療等の関係機関の情報を反映した。また、学校全体で支援の役割を分担したり、見直したりする等一貫性のある支援のために活用した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 市で統一した様式を、毎年見直し、その様式を用いて各小中学校で個別の教育支援計画を作成することができた。3年間の目標(長期目標)や1年間の目標(中期目標)、1年ごとの支援内容と課題、評価や合理的配慮について記入できるようになっており、3年先を見据えた系統的な計画を立てることができた。また、学校間の引継ぎについて、本人及び保護者の同意を得たうえで、切れ目のない支援体制の充実を図った。</p> <p>【課題】 学期ごとに、個別の教育支援計画を保護者と確認したり、校内支援委員会で検討したりすることで、より適切で一貫性のある支援を学校全体で組織的に行う必要がある。また、学校間の引継ぎについて、将来の社会的自立を見据えた十分な説明と話し合いのうえで、本人及び保護者の同意を確認する必要がある。</p>

授業のユニバーサルデザイン化

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	ICTの活用や教材の工夫により、すべての学校において、ユニバーサルデザインに配慮した多面的な方法を取り入れた授業づくりをめざす。また、サテライト講座やコーディネーターネットワーク会議において、特別支援教育に関する基礎知識の習得と指導力向上を図る内容を取り入れて教職員研修の充実を図った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 ユニバーサルデザインに配慮した授業づくりに向けての研修を実施した。iPadのアクセシビリティという機能を活用して漢字にふりがなをふったり、文章を音声で読み上げたり、文字を拡大したりする等、ICT機器を活用した支援が増えてきている。教室掲示の工夫や教材の構造化を図った例も見られた。</p> <p>【課題】 ユニバーサルデザインに配慮した多面的な方法を取り入れた授業づくりについては、取組に学校間で差がある。iPadのアクセシビリティの他、授業のユニバーサルデザイン化に有効な方法の研究が必要である。</p>

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

中高連携シートの活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	中学校・高等学校連携シートを保護者の同意のもとに作成し、本人の発達の特性、得意不得意、学習の状況、配慮事項等について、中学校から進学する高等学校へ引き継ぐことにより支援の継続を図った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 淡路版中高連携シートの説明チラシ等を活用し、担任や特別支援教育コーディネーターから丁寧な説明をすることで、本人及び保護者の同意を得ることができた。連携シートを活用することで、進学した高等学校において、4月当初から本人の特性等を理解してもらえ、スムーズな支援の継続を図ることができた。</p> <p>【課題】 中高連携シートを高等学校へ引き継ぐ際には、口頭での情報交換も行い、連携を充実したものにする必要がある。また、引き継いだ後も、必要に応じて中学校と高等学校が連絡を取り合い、情報交換しながら生徒本人の支援を継続していく必要がある。</p>

関係機関との連携

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	サポートファイルに、本人及び保護者の願いや学校園所の個別の教育支援計画、各関係機関、検査結果、支援方法を綴り、そのサポートファイルに関係機関との連携に活用した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 幼稚園・こども園・保育所(園)と小学校の引継ぎをスムーズにするために、サポートファイルの活用や有効性について教育と福祉連携推進会議で説明した。また、小中学校に対しても、気になる児童生徒には本人及び保護者の同意の上で作成することができることを再確認した。関係者の理解が深まった結果、作成依頼が増えてきており、サポートファイルの活用が少しずつ広がっていることが実感できた。関係機関との連携や引継ぎに大いに活用することができた。</p> <p>【課題】 サポートファイルの活用は、少しずつ広がっているが、サポートファイルの詳細についての認知度は、まだ低い。継続して、特別支援コーディネーター会議等で作成の目的や内容について知らせていくとともに、その活用方法、引継ぎ方などについてより良いものになるようブラッシュアップしていく必要がある。</p>

あわじ教育相談

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫県立あわじ特別支援学校の相談員が、原則、毎月第2、第4木曜日に特別な支援が必要であると思われる幼児、小中学校に在籍する児童生徒を対象に日頃の生活や学習、進路における支援の方法等について教育相談を行った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 2人の相談員による対応で、令和4年度の相談件数は85件であった。幼児の相談や、中学生の進路についての相談が増加している。教育相談を通して、幼児、児童生徒の支援方法への理解が深まったり、医療機関を紹介することをきっかけに通院して特性を確認できたりと、将来に向けた支援の方向性について考えることができた。また、児童生徒本人と保護者だけではなく担任等も同席することで、学校園所との共通理解が深まり、スムーズに支援体制を構築できることもあった。</p> <p>【課題】 教育相談では通級指導や特別支援学級への入級、進路選択等の相談もあることから、淡路地域のセンター的役割をしているあわじ特別支援学校の相談員とさらに連携を深める必要がある。</p>

基本的方向5

キャリア教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 体系的・系統的なキャリア教育の推進

- ① キャリアノート等の活用
- ② 幼こ保・小・中・高の連携
- ③ 小中一貫教育

イ 社会に触れる機会の充実

- ① トライやる・ウィーク
- ② 夢プロジェクト

キャリアノート等の活用

担当課

学校教育課

事業内容・
実施状況等

キャリアノートやキャリア教育指導資料等を活用して、自分自身のことや将来にわたって学ぶこと、働くことの意義・役割等を理解させ、社会の一員としての自覚や社会参画への意欲や態度の育成を図った。また、キャリアノートとキャリア・パスポートの使い分けを確認し、内容を整理することで、振り返りや将来の展望を考えやすくしている。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 キャリアノートを学期のはじめや終わり、学校行事や学年での取組などで目標を立てたり、振り返ったりするために活用することにより、児童生徒が自らの成長を実感することができた。特別活動を中心に国語、社会、道徳などでも活用することができた。また、従来のキャリアノートは内容が充実すればするほどファイル自体が厚くなり引き継ぎにくかったが、キャリア・パスポート(各学年A4サイズ2枚分)の1年間の枚数を限定し、整理することで、スムーズに引き継ぐことができている。

【課題】 まずは各校にて学年でのキャリアノートやキャリア・パスポートの引き継ぎをしっかり実施しそのうえで、年度始めに新年度のキャリア教育の計画を立てる必要がある。また、キャリア・パスポートにある「先生から」の欄には一人一人の次のステップにつながるように後押しする内容を記入することが大切である。キャリアノートとキャリア・パスポートの活用をさらに促進し、充実したものにしていく必要がある。

幼こ保・小・中・高の連携

担当課

子育てゆめるん課・学校教育課

事業内容・
実施状況等

幼稚園・こども園・保育所(園)から小・中・高まで、それぞれの学校園所間の接続期において、子どもの発達や学びの具体的な姿を共通理解し、学びにつなげていく。合同授業研究会や合同研修会等を実施し、幼稚園・こども園・保育所(園)・小・中・高間の交流をさらに進めていく。また、防災ジュニアリーダー研修など本市独自の事業を通して小・中・高生が共に体験できる事業や活動を通して連携を図る。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 サポートファイルやあわじ教育相談を通して、幼こ保と小学校、小学校と中学校の接続期における情報交換、共通理解を促進したり、令和5年度の特別支援学級の入級について、連携を図ることができた。さらにキャリア・パスポートを活用して、小学校から中学校、高等学校へとキャリア教育に関わる自らの学習状況を引き継ぐことができた。幼小では、子どもたちの学びをつなぐカリキュラムの研究を進めることができた。また、幼こ保、小・中が合同で防災訓練を行うなどの連携も図った。中・高間の接続期において連携シートの活用もなされ、切れ目のない一貫した連携の促進が図れた。

【課題】 小・中の連携は比較的しやすいが、幼こ保や高校との連携が十分ではないため工夫が必要である。例として、幼こ保と小学校との連携では、県教委作成の「親子ノート すくすくひょうごっ子」の活用が考えられる。親子ノートとキャリア・パスポートがつながると、幼こ保から高校まで連続したものになることが期待できる。

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

小中一貫教育

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和2年度より、沼島小中学校において、小中一貫教育を開始した。令和4年度より小中共通の学校教育目標を掲げ、さらに小中連携での計画的な行事や日々の活動、生徒指導等における連携を推進している。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 沼島中学校の教員が沼島小学校6年生の授業(算数、外国語)、1～6年生の授業(図工)を担当するカリキュラムを作成し、実施した。その結果、各教科の専門性を重視し、授業を充実させ、学習内容を深めることができた。また、中学校の各教科の教員が小学6年生の学習状況を把握できたので、中学1年への接続が教員にとっても生徒にとってもスムーズであり、学習面における中1ギャップを軽減することができた。</p> <p>【課題】 作成した小中一貫教育のカリキュラムについて、分析、改善していく必要がある。また、行事や日々の活動、生徒指導面だけではなく、学習面においても進捗状況や生徒の様子等情報の共有を図り、連携をさらに進めていく必要がある。</p>

トライやる・ウィーク

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	事業所、地域、学校、家庭との連携を図りながら、子どもを育てる活動として、中学校2年生を対象に25年目(平成10年度～)を迎えた。 令和4年度はコロナ禍ということもあり、感染の影響で1校が1日で活動を終了する事態になったが、4つの中学校は、5日間の活動を実施することができた。内容については従来通りの職場体験活動を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 中学校における進路指導、キャリア教育と関連づけて、事前事後指導の充実を図り、生徒一人一人が自分たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとなった。また、職場体験活動を通して生徒が地域への貢献と繋がりを実感することができ、地域とのつながりがより深くなった。 また学校関係者や各事業所の代表者を集めて、トライやる・ウィーク推進協議会を開催し、令和4年度の南あわじ市の現状について共有し、令和5年度に向けて、新規の協力事業所の確保に努めるため、ここ数年1回の開催であったが、令和5年度は2回開催することに決定した。</p> <p>【課題】 トライやる・ウィークの経験を活かして、事後に地域行事や地域の活動に参加するなどの活動「トライやる・アクション」を各校実施した。この事業で培われた地域の教育力を活用し、今後も事業所に協力依頼しながら生徒たちにとって充実した活動になるよう継続していきたい。</p>

夢プロジェクト

49～50ページにも記載

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	<p>小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人等を講師に招き、スポーツや文化の魅力や楽しさ、努力することの大切さを感じてもらおうとともに、友達を大切にすることを育み、大きな夢を持って今後の活動と豊かな生活を送ってもらうことを目的に実施した。</p> <p>派遣学校 中学校 3校(西淡中・南淡中・沼島中) 小学校 4校(阿万小・沼島小・広田小・倭文小) 続編 少年野球教室、Vリーグ観戦</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 プロと出会え、間近でその素晴らしさに触れられる体験は、児童にとってまさしく夢プロジェクトである。趣旨通り、本物を体験することで大きな感動が生まれ、子どもたちの夢が広がっていることは感想からもうかがえた。たとえ、そのプロが将来の選択肢でなくても自分の得意なことで人や社会を元気づけたい、子どもたちにそんな思いが生まれ、自分の夢や志を考えるきっかけになる体験となった。特に本年度は、現役のオリンピック金メダリストや地元ゆかりのある人気芸能人など、子どもたちの純粋な憧れの存在と、身近に触れ合う体験ができたことや、子どもたちにとって年齢的に近い存在である大学生が活動をしていることも希望になっていた。そして、そんな夢の実現のために多くの人の支えがあることにも気づききっかけとなった。</p> <p>【課題】 児童生徒にとって有意義な一日となるのだが、お越しいただいた講師にも南あわじ市の魅力や人の温かさを感じてもらい、南あわじ市を全国に発信していただけるように講師へのおもてなしを考えることが今後の課題である。</p>



オリンピック金メダリスト 阿部一三 氏・詩 氏 (沼島小中)



関本賢太郎 氏 (南淡中)



父親の母校での講演 増田英彦 氏 (西淡中)



ダブルダッチ (広田小)



ボーカルグループ (倭文小)
クーリーハイハーモニー



オリックス・バファローズ選手野球教室 (三原健康広場)

基本的方向6

幼児期における教育の充実

【重点目標】

【主な取組】

ア 幼児期における教育の質の向上

- ① 遊びから学びに繋がる体験活動
- ② 本との出会いの場の提供
- ③ 職員の研修

イ 幼児期と児童期の円滑な接続

- ① 幼こ保小連絡協議会
- ② 交流活動の充実
- ③ 育児力の強化

遊びから学びに繋がる体験活動

担当課

子育てゆめるん課

事業内容・
実施状況等

子どもたちが展開する主体的な遊びとして、自然遊び、自然物の観察活動、季節の行事活動から広がる遊び、得意なことや興味あることを発展させた遊びや伝承遊びなどを実施した。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 おもしろそう、やってみたいと自分から興味を持ち、周りにある「人・もの・こと」に関わっていく中で、これどうなってるのかな、こんな風にしてみたいなど好奇心、探求心を働かせたり、思いを巡らせ、イメージを膨らませたりして、自分のやりたいことを実現して遊びを創造することができた。また、その遊びを共に生活する仲間に伝え、みんなの前で披露し、自己表現や自己発揮する姿が見られた。

クラスでの活動として、自分達の興味や得意なことを認め合い、遊びの進め方をクラスで相談して互いの意見を受け入れ、共通の目的に向かって計画し実践できた。

四季折々の自然に触れ、園庭や保育室にある飼育小屋や観察ケースで小動物を飼うことによって、それらの動物の生態や成長を知ることができた。

職員は、子どもたちに寄り添い、内面にある思いに目を向け理解しながら、どんな事に興味を持っているのかを意識して関わる事ができた。また、子どもの発達段階を把握した上で様々な環境を設定し、子どもの思いや気づきを大切に保育を積み重ねることで、子どもが楽しいと思える学びの場を作り出している。

【課題】 今後もやりたいことを自分で見つけ、考え工夫をして遊ぶ活動へつなげていきたい。

本との出会いの場の提供

担当課	子育てゆめらん課
事業内容・実施状況等	保育の中での絵本読み聞かせ、地域ボランティア団体による絵本の読み聞かせ活動、家庭への絵本貸し出し、自然観察等における図鑑活用を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 家庭への貸し出し絵本は、返却時に保護者から読み聞かせ時の子どもの様子等の感想をいただいている。子どもは保護者の優しい声を聞き、絵本を通して親子の会話が増え、質の良いコミュニケーションにより情緒が安定し、想像力や聞く力が育つなど、親子の時間が楽しく豊かになっている。</p> <p>保育の中での読み聞かせでは、絵本の中の登場人物になりきって想像の世界を自由に楽しむ等、登場人物のさまざまな気持ちにふれることで他人の感情や思いを知ることができ、表現ごっこ、お話遊び、劇遊びに発展し、生活発表会の場でいきいきと表現することができた。また、園庭で見つけた動植物を図鑑で調べ興味、関心を広げる活動につながっている。このように、絵本に触れ、物語に親しむ読み聞かせは感性を豊かにし、言葉や文字への興味を持つきっかけにもなっている。</p> <p>【課題】 絵本に触れることや読み聞かせによって、親子の触れ合う機会を増やして愛情が深まる事や、子どもたちの想像力とコミュニケーション能力が育ち、言葉や表現力が豊かになり、総合読解力が育つ基礎となる等、子どもにもたらす大きな効果と大切さをさらに保護者に伝え、広めていく。単に文字が読めることと、想像力を働かせながら本が読めることの違いを保護者に理解していただき、絵本は言葉を育み、美しいものへの感性が磨かれる魔法の力があることを広く知ってもらう働きかけしていく必要がある。</p>



職員の研修

担当課	子育てゆめらん課
事業内容・実施状況等	幼稚園等新規採用教員研修、南あわじ市職員研修会(実技・講演)、職員人権研修会、各園で開催の保護者及び職員対象の人権研修会、オンライン研修に参加。幼小接続研究の公開保育、園内研修や主任保育教諭会、保育士会、幼稚園・こども園での歳児別担当者研修会等を実施。学びの芽生えプログラムを全園で実施。5歳児を対象に子どもたちの遊びを通じた学びを見取り、「学びのめばえノート」に記録。子どもの成長を保護者と共に情報共有し、信頼関係を構築する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 研修を受講し、学んだ事を園の職員に報告。情報を共有して意見交換し、幼児理解へつなげた。歳児別研修会等では、各園の実践報告が学び合いの場となり、子ども達への対応や環境設定の工夫と見直しにつなげることができた。幼児期と児童期の円滑な接続推進事業では、幼小のスムーズな接続となるための計画や情報共有、アプローチ・スタートカリキュラムのすり合わせを行った。公開保育では、保育の場面を共有するだけでなく、参加した小学校の教員と保育者が率直に意見を交わし語り合う中で課題が見えてきたり、幼児教育の理解を深めることができた。</p> <p>【課題】 幼児理解は保育の基本であり、保育者の役割の中でも大変重要なものである。子どもの内面を理解する力、子どもの行動の意味するものを捉える力、いろいろな情報を駆使し総合的に判断する力など、園内研修をさらに充実させ、保育の質を高めることが大切である。そして、専門的な資質を持ち、質の高いチーム保育で学びがつながるよう幼児期の子ども達を育てていくことが期待される。</p>

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

基本的方向6 幼児期における教育の充実

幼こ保小連絡協議会

担当課	子育てゆめるん課・学校教育課
事業内容・実施状況等	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続と体制作りとして、各校長及び園長が集まり、交流計画や連携についての意見交換を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 幼稚園・こども園・保育所(園)・小学校の交流内容について、お互いに意見交流や情報交換ができ、幼児教育への理解が得られた。特に、幼稚園教育要領改訂の実施に伴い、幼稚園・こども園・保育所(園)において、幼児期の教育として「幼児期において育みたい資質・能力」が、小学校につながる「基礎」となることを、研修会で学ぶことができた。幼稚園・こども園・保育所(園)・小学校の連携を大切にするため幼保こ小の教職員が参加する合同研修会を計画し、資質能力の育成に努めることの重要性を共有した。</p> <p>【課題】 幼稚園・こども園・保育所(園)と小学校の交流の場を広げるだけでなく、お互いに授業参観を通して、どんな力や学びがつながっているのか、理解し合うことが必要である。今後、幼児期の教育と小学校の教育に滑らかな接続に取り組むためにもカリキュラムを整える必要がある。</p>

交流活動の充実

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	開かれた園づくりの一環として、園庭開放を継続実施。異校種交流、地域社会との連携を図り、交流活動の機会を充実させていく。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 恵まれた自然環境やあたたかい地域愛を感じ、豊かな心が育まれている。家庭及び地域と協働し、園の取組への理解や子どもたちの成長に関心を寄せていただいた。地域が主体となって子どもの感性を磨くことを目指し、子どもが楽しめる行事の展開ができた。地域と園の協働による体験活動の実施は、自分の町の特色を知り、活かすことや人とのつながりを深めることができた。園児数が減少する中、各園との交流を計画し、交流活動の経験を広げていった。</p> <p>【課題】 交流活動の取組について新たに見直す機会とし、今までとは違った方法を考えていく。また、地域に開かれた園づくりを目指し、地域ならではの良さを生かす活動の発信や取組を工夫し、人とのつながりを絶やさず続けていく努力をしていく。</p>



育児力の強化

担当課	子育てゆめるん課
事業内容・実施状況等	<p>子育て支援事業として、幼児教育及び保育の無償化、預かり保育及び病後児保育に取り組んだ。</p> <p>保護者支援活動として、幼児教育資料「すくすくひょうごっ子」の配布、園での保護者研修会、個人面談を実施した。</p> <p>また、学びのめばえノートを使い、保護者と子どもの育ちについての姿を共有した。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 預かり保育の需要が高まってきている。</p> <p>また、園行事として親子参加型の研修、人権研修、子育て研修等の保護者研修会を実施した。参加人数も多く、熱心に取り組む保護者も多い。行事や研修後には、保護者からの様々な意見や感想を保育の参考にしたり、多くの保護者に紹介するなどの情報提供を行った。個人面談などでは、子育てについてのヒントや話し合いをする場として保護者との連携を図り、子どもの成長につなげた。学びのめばえノートの活用では、子どもが何に興味を持っているかがわかり、会話が増えたという意見をいただいた。</p> <p>【課題】 幼児期における子どもの一人一人の成長をわかりやすく保護者に伝えていく方法(幼児教育資料や個別の学びのめばえノートの活用と理解の説明会、ドキュメンテーション掲示など)を通して、子育ての喜びが感じられるような教育、保育の充実を図り、保護者支援を行っていく。</p>



基本的方向7

南あわじ市の防災教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 防災教育の充実

- ① 防災ジュニアリーダー養成事業
- ② 防災出前授業
- ③ 自然学校「防災学習」



イ 学校防災体制の充実

- ① 学校防災マニュアルの作成
- ② 避難所運営部会

防災ジュニアリーダー養成事業

担当課 学校教育課

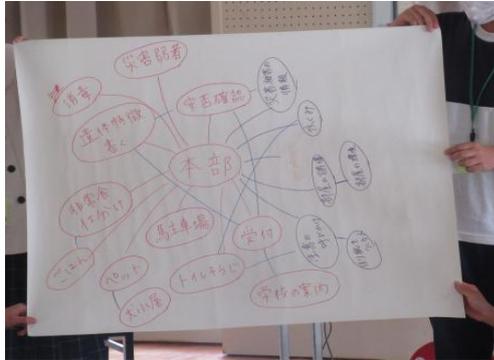
事業内容・
実施状況等

小中学生を対象に参加者を募り、防災ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティア活動を継続して実施し、将来の災害において臨機応変に対応できる力やリーダー性を身につける。令和4年度はコロナ禍のため本来の形での実施を見送り、防災ジュニアリーダーのオンライン研修を2回、東北から講師を招聘しての避難所運営のワークショップを実施した。南あわじ市内の内陸部と沿岸部の中学校間で、防災パートナーシップを締結し、研修会を実施して、平時や被災時に自校の役割を確認した。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 市内中学校の相互扶助を目的とした防災パートナーシップの締結に際し、オンラインによる打ち合わせ会や集合研修会を実施することができた。避難所運営のワークショップでは、実体験に基づいた避難所での子どもたちの存在、役割の大きさを知ることができたことで、自分ごととして避難所運営について考え、意見交換をすることで、防災への知識や意識を高めることができた。そして自ら率先して動く大切さを学び、被災時自分がまず助かることの大切さ、その命は自分だけのものではないことを学んだ。

【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、防災ジュニアリーダー養成合宿、東北ボランティア活動が継続して中止となっている。今後、より一層、コロナ禍に対応した防災教育や、体験活動のあり方を考え、進めていく必要がある。



防災出前授業

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	平成29年5月に本市と県立舞子高等学校が教育に関する協定を結び、1年に3回、市内6校で高校生による防災出前授業を継続している。 また、教育長が講師となって市内小中学校を訪問し、「防災をなぜ学ぶのか」をテーマに児童生徒を対象に防災学習の講演を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 舞子高校による防災出前授業は、各校で新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のもと対面式で実施した。学習内容は、地震が起こった時の行動や避難所における中学生の役割、マイ避難カードの必要性などであった。どれも児童にとって親しみやすく、わかりやすい授業となった。</p> <p>【課題】 現在は、地震や被災時の避難所運営に関係のある授業がほとんどである。今後、防災教育を深めていくために、その時の状況に応じた効果的な授業形態や地震や津波に限らず、台風による大雨、土砂災害等授業内容を、より一層多様にしていく必要がある。</p>



自然学校「防災学習」

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	市内全小学校の5年生が、自然学校で、防災プログラム(防災クエスト)等の体験や防災震災・学校支援チーム(EARTH隊員)や市役所危機管理課職員を招聘する等、各校で工夫した防災学習に取り組んでいる。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 EARTH隊員による、校区内の防災施設を確認する防災ウォークラリーや避難所体験等を実施し、災害時の避難行動について考えることができた。また、災害時を想定した野外炊飯等を実施している学校もあり、制限された状況下で野外炊飯を実施し、水が十分使用できないだけでも、非常に不便であることを体験することができた。日々の生活に防災の視点を少し入れるだけで、防災意識や知識が向上し、いざという時の自分の命を守る行動につながるのだということを学習することができた。また、自助や共助を学び、自分の命は自分だけのものではないことも学んだ。</p> <p>【課題】 複数災害下での行動は、これまでの防災学習ではカバーしきれない部分がある。できる備えを行った上でも、想定外の事態は起こると考えられる。経験や学習したことのない場面に遭遇しても、その時の状況や情報から、よりよい判断、行動が取れる力の育成が急務である。また、一人だけで考え、行動するのではなく、時には周りの人たちの声にも耳を傾け、力を合わせていくことも大切である。そのようなコミュニケーション能力の育成も急務である。</p>

基本方針1 主体的な学びを深める教育の推進

学校防災マニュアルの作成

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	学校独自で作成している「防災マニュアル」を、防災訓練等の機会を活用して見直し、校内研修を通じて危機管理意識や判断力、行動力の育成をめざし、組織としての連携を図る。また、被災時の初期段階における避難所運営において、地域における学校の役割、教職員個々の役割等についても理解を深める。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症に対応しているマニュアルにおいて、事前・発生時・事後の3段階で対応を見直すことができた。被災時の避難所運営において、地域における学校の役割、教職員個々の役割等についても理解をさらに深めることができた。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、避難の際、人数制限や消毒、トイレや食事の確保、感染者の隔離等、今まで以上に様々な事態の想定が必要になってくる。同時に高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦や新型コロナウイルス感染症感染者等要支援者への支援体制の確立が急務である。これは学校だけにとどまらず、普段から地域を巻き込んだ行動が必要である。</p>

避難所運営部会

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	地震拠点避難所7箇所に関係者が集まり、部屋割り、物資や物資管理場所の確認、避難所生活でのマナーとルール、避難所での役割分担等を確認し、情報の共有を徹底する。また、各場所の避難所運営部会の報告を挙げ、避難所開設・運営マニュアルの内容を確認している。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和4年度は4月から6月にかけて拠点避難所部会、7月末に防災教育推進連絡会議を実施した。また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分行った上で研修を実施することができた。</p> <p>【課題】 コロナ禍を想定し、拠点避難所だけでなく、広域避難所においても関係者の打ち合わせや被災時を想定した訓練が必要である。また、地震や津波に限らず台風による大雨や土砂災害等、災害はいつ起こるかかわからないため、年度の早い時期に拠点避難所部会を実施する必要がある。</p>

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

基本的方向1 教職員の資質・能力の向上

基本的方向2 学校の組織力の強化

基本的方向3 安全・安心な教育環境

基本的方向4 家庭と地域による学校と連携した教育の推進

基本的方向5 人権文化をすすめるまちづくり

基本的方向1 教職員の資質・能力の向上

【重点目標】	【主な取組】
ア 研修体制の充実	① 基本的な資質・能力向上のための研修 ② 南あわじサテライト講座 ③ スクールチャレンジ事業の活用 ★
イ 教職員の働き方改革の推進	① 教育用コンピュータ管理 ② 教職員の勤務の適正化

基本的な資質・能力向上のための研修

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫県資質向上指標をもとに、教職員自身の資質能力を振り返り、絶えず研修を深めることで、「学習指導」「学級経営」等の教育の専門家として、感性豊かな実践的指導力の向上をめざす。また、すべての教職員にとって必要な高い使命感・倫理感のさらなる醸成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 児童生徒理解に基づいた丁寧な「学級経営」や児童生徒の主体的な学びを引き出す「学習指導」等の研修を行った。また、校内研修では、学習指導要領に基づいた教材研究や授業研究への取組、児童生徒が主体となる授業改善や視覚的支援に有効なICTの活用等の推進を図った。また、市教職員研修の中に教職員の非違行為、ハラスメント研修を取り入れた。</p> <p>【課題】 コロナ禍のため、ワークショップ等の開催が難しく、話し合ったり、考える時間が少ない伝達研修となった。今後は、オンラインと集合を組み合わせるなど、目的に応じた効果的な研修を考えていく必要がある。また、ストレスによる非違行為やメンタルヘルス等の研修は必須である。</p>

南あわじサテライト講座

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫教育大学との提携により、南あわじ市サテライト講座を5回実施している。そのうち2回は教職員の資質向上研修で、3回は学校経営講座を実施している。本市及び淡路地域の学校づくり、管理職・ミドルリーダー等の育成を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和4年度の資質向上講座は、森山教授の「iPadの実践事例～ICT利活用～」、井澤教授の「応用行動分析に基づいた行動支援～行動上の問題の理解と対応～」を実施した。iPad、電子黒板等ICT機器の有効な活用方法や応用行動分析から「できる」ための環境づくりについて研修することができた。学校経営講座では、浅野教授を講師に招聘し、「学校の特色づくり」の研修を行った。学校における管理職や主幹教諭、ミドルリーダーを中心に、教師としての資質・能力の向上を図り、学校運営やマネジメントについて意見交流しながら深く学ぶ場となった。</p> <p>【課題】 教師の資質・能力の向上は必須である。今後は、学校運営を担う管理職が不足する事態が予想される中で、マネジメント能力育成や中堅教員の資質向上等を通して、学校経営の見方考え方を育成し、社会の多様な価値観への対応を組織として構築する必要がある。</p>



スクールチャレンジ事業の活用

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	令和元年度より開始し、各学校が「学ぶ楽しさ日本一」をめざす事業の一環として、学力向上、ICT教育の推進、特別支援教育の推進、いじめ・不登校問題への対応など、様々な課題に対し、主体的に独自の切り口で課題解決を図り、特色ある学校づくりを推進する。また、研究指定を受けて取り組んできたものをさらに継続発展させる。事業の取組状況や成果については、校務支援システムやHP等において共有化及び情報発信を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和4年度も各学校では年度末に学校評価などを基に取組課題を洗い出し、研究テーマを設定し、計画を作成した。そうすることで課題を焦点化し、全教職員で共有することができた。またその課題を新年度にスムーズに引き継ぐことができ、解決に向けて取り組むことができた。そして教職員の自主性を育むことができ、児童生徒の様子や変化など、あらゆる機会に必要なに応じて情報共有を図ることができた。この取組を継続的に実施し、PDCAサイクルを活用することで効果的な学校運営が期待できる。また、校務支援システムで、掲示板の活用やホームページの開設を行い、学校教育の見える化が進んだ。</p> <p>【課題】 めざす子どもの姿への到達度を図るルーブリック評価において、観点をもっと具体的にわかりやすく設定する必要がある。また、事前に教員、児童生徒自身が、客観的に現時点での到達度やこれからの方向性を確認することができる環境づくりが必要である。</p>

教育用コンピュータ管理

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	教育情報システムの更新に係る設計・構築及び運用・保守業務委託選定業者をプロポーザル方式により決定し、情報機器等の更新を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 ゼロトラストセキュリティモデル(多要素認証等)による教育情報ネットワークを構築し、教員用パソコンを学習用・校務用に使い分ける必要がなく、市内の学校であればどこでも端末1台で安心して使える校務環境を整備した。</p> <p>【課題】 新システムを使いこなすには、引き続き定期的な運用マニュアルの見直し及び操作研修等がある。また、新システムを活用していく上で更なる改善を行い、教育現場に適した環境の整備を進める。</p>

教職員の勤務の適正化

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	統合型校務支援システムを導入し、グループウェアを用いて校務の市内統一化を進めることにより、業務の効率化を図る。また、南あわじ市教職員勤務時間適正化検討委員会にて学校業務改善の推進にあたり5つの重点目標を掲げ、教職員の業務を見直すとともに教職員の意識改革を図る。具体的な取組である「教職員定時退勤日」や「ノ一部活デー」などについては学校だよりや「あんしんネット」等を活用し地域や保護者への周知を図る。これらの取組により、教職員の長時間労働の状況を改善し、教職員が子どもと向き合う時間を確保する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 教職員勤務時間適正化検討委員会、業務改善に係るIT推進委員会や専門部会等で組織的に業務改善対策を協議することができた。また、統合型校務支援システムについては、システム面の改善や運用面マニュアルの見直しを行った。教職員の長時間労働については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学校行事の精選や内容のスリム化を図り、部活動指導員の配置、スクールサポートスタッフの有効活用により、改善が見られた。</p> <p>【課題】 統合型校務支援システムについては今後も計画的に研修を実施することで、全教職員の業務改善につなげていく。また、各種の委員会システムや運用マニュアルの見直し引き続き必要である。教職員の長時間労働については、まず教職員の意識改革を図り、ワークライフバランスについての研修を実施する。また、教職員全体で記録簿のあり方を見直し、在校時間について考え、メンタルヘルスの保持・増進に配慮した校内体制を構築する。</p>

基本的方向2

学校の組織力の強化

【重点目標】

【主な取組】

ア 管理職の育成

① 南あわじ市サテライト講座「学校経営講座」

イ いじめ等問題行動・不登校への対応

- ① いじめ防止・解消
- ② 不登校児童生徒への支援の充実
- ③ 市小・中・高生徒指導連絡協議会

南あわじサテライト講座「学校経営講座」

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	兵庫教育大学の浅野教授による学校経営講座を3回開催する。そのうち、1回は教授と現職大学院生による学校視察・学校評価を実施し、学校経営やマネジメントについて意見交流会を持つ。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各学校の課題、学校運営やマネジメント等について、グループ討議をして意見交流を図った。浅野教授の講座「学校の特色づくり」を通して、改めてミドルリーダーや管理職の役割を考えることとなった。さらに学校視察・学校評価では、広田小学校、三原中学校へ教授と現職教員大学院生が来て現状を把握・分析し、改善方策の提言をいただいた。</p> <p>【課題】 講座で学んだことを各校においてフィードバックし、組織的・計画的な人材育成及び学校経営の改善を進めていく必要がある。社会の変化の大きさとスピードが一段と増している中で、リーダーを中心に学校の「改善力」「組織力」を高めていかなければならない。</p>

いじめ防止・解消

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>いじめ問題対策連絡協議会は、学識経験者、保護者代表、学校代表、南あわじ市警察署、人権・福祉等関係機関を委員に委嘱し、市のいじめ防止について市内の状況や小中学校での取組等、情報交換及び協議を行った。</p> <p>いじめ問題対応委員会は、弁護士、精神科医、臨床心理士、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを委員に委嘱し、市内小中学校の状況を情報共有後、重大事態への対処や特に大切な初期対応について確認を行った。</p> <p>学校運営支援対策員事業では、学校と密接に連携し、生徒指導上の課題に対する相談や問題の未然防止・早期発見・早期対応の支援を、学校教育課内で十分情報共有を図り、対応や方向性を明確にした上で行った。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小中学校の中には児童生徒が主体となって、いじめ防止の活動を行う等、教師からの指導だけに偏らず、児童生徒側からも積極的にいじめと向き合い、いじめを許さない集団づくりを進めることができた。また、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題対応委員会で、各学校の現状と取組について情報共有ができ、いじめを許さない学校づくりについて意見交換を行い、学校への啓発を行うことができた。また、児童生徒指導体制について、早期発見・早期対応をめざし、教職員の力が十分に発揮できるように連絡体制を構築し、即行動に移せる組織作りについて研修を実施することができた。</p> <p>【課題】 インターネット、SNS等でのいじめは、実態が把握しにくくなってきている。いじめの芽を見逃さず、早期発見、早期対応するためにも、全教職員がいじめの定義を再確認したうえで積極的に認知を行っていくことが重要である。学校と保護者・地域・関係機関がさらに連携を密にして、対応・啓発していく必要がある。また児童生徒指導体制について、情報共有がまだまだ図れず、即行動に移せていないケースが多々あるため改善していく必要がある。</p>

不登校児童生徒への支援の充実

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>適応教室(4教室)において、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行う。</p> <p>校内の生徒指導委員会で情報共有し、必要に応じて適応教室指導員、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携を図る。また、中学校区の生徒指導連絡協議会にて情報共有し、小中連携を図る。また、南あわじ市小・中・高生徒指導連絡協議会では現状の把握や関係機関との連携を図り、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援を行う。また学習用タブレット端末を活用し、教室の雰囲気になじみ、授業に参加し、友達とも顔を合わせられるような環境の構築を進めている。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 GIGAスクールによる学習用iPadを活用して、学校と家庭、教室と別室をつないで授業を受けることができた事例もあった。また、適応教室、保健室、別室と教室をオンライン接続し、ZOOM等のアプリを活用することで顔を見たり、授業に参加したり、連絡を取り合うことができた。</p> <p>不登校児童生徒問題について各校の現状や対策について共有することができた。</p> <p>【課題】 児童生徒が何らかの理由で休み始めた時に、早期に、組織的な対応をするとともに関係機関と連携する必要がある。また不登校児童生徒についての対応は多様であるため、持続可能な体制の構築を図り、学校と保護者・地域・関係機関がさらに連携を密にして進めていく必要がある。</p>

市小・中・高生徒指導連絡協議会

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	<p>青少年育成センター長、南あわじ市警察署、市民福祉部子育てゆめるん課、淡路三原高等学校生徒指導、小中学校生徒指導担当校長、小学校ブロック代表生徒指導、各中学校生徒指導、教育委員会を委員として、年に5回実施する。各関係機関から南あわじ市の状況における情報提供をいただき、また、各校の今日的な課題については全体で協議し、理解を深め解決を図る。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 問題行動や不登校児童生徒の問題が小・中・高のどの校種で発生しようと、情報共有を図り、関係機関から情報提供できるシステム作りができていたので解決が早い。令和2年度からスマホ・ネットのアンケート調査票を市内の中学校で統一したことにより、情報共有がしやすくなった。小学校、中学校、高等学校での情報共有は、児童生徒の経年での見守りにあたるので非常に有意義である。</p> <p>【課題】 年に5回実施しているが、各校種の問題行動・不登校等の報告件数が増加し、内容も多様化していることから、1件に対して全体で協議する時間が減少していることが課題である。</p> <p>小・中・高連絡協議会で情報共有を図るだけでなく、日常的に必要な情報を共有するための連絡体制が必要がある。</p>

基本的方向3

安全・安心な教育環境

【重点目標】

【主な取組】

ア 施設・設備の改修

- ① 大規模(長寿命化)改造工事
- ② 校舎等営繕工事

イ ICT等の設備

- ① 統合型校務支援システム

大規模（長寿命化）改造工事

担当課

教育総務課

事業内容・
実施状況等

三原中学校特別教室棟、榎列小学校、賀集小学校、志知小学校の大規模改造工事について、夏休み期間を利用して実施した。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 大規模改造工事により、老朽化を迎えた学校施設の耐久性及び機能性の向上が図られ、より快適で安全・安心な学校生活の確保ができた。

【課題】 令和5年度以降、国の補助金制度による大規模改造の老朽化メニューが終了したため、新たな財源確保や計画の大幅な見直しが必要である。
また、児童生徒数が減少する中、子ども達にとって望ましい教育環境や新しい学びを実現するために、将来ビジョンを形成した学校施設整備計画の策定が必要である。



賀集小学校 大規模改造工事（第2期）



三原中学校特別教室棟 大規模改造工事

校舎等営繕工事

担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	松帆小学校防球ネット改修工事、辰美小学校校門改修工事、湊小学校、広田中学校、三原中学校のトイレ洋式化等工事、神代小学校、広田小学校の防犯カメラ更新工事など、全面改修には至らない施設及び設備の部分的な改修を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 児童生徒が安全・安心に学習できる環境を整備することができた。</p> <p>【課題】 給排水及び衛生設備の経年劣化をはじめ、様々な設備の老朽化が進んでいる。また、新しい生活様式を踏まえ、健やかに学習できる衛生環境の整備を行う必要がある。児童生徒が安全に安心して学習できるよう、学校施設整備計画の大幅な見直しとあわせてバリアフリー化、トイレの洋式化、空調設備等の整備事業を実施しなければならない。</p>

統合型校務支援システム

担当課	教育総務課・学校教育課
事業内容・実施状況等	教育情報システムの更新に伴い、校務支援システムをクラウド版に移行し、新システム内で利用できるように整備する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和5年8月の完全移行に向けたネットワークの構築ができた。また、移行に伴うスケジュールや移行後の変更点を学校現場に説明した。</p> <p>【課題】 新しいシステムのため、活用しないとわからない課題点もあり、活用しながら、定期的な運用マニュアルの見直しや操作研修などを継続して行う必要がある。</p>

基本的方向4

家庭と地域による学校と連携した教育の推進

【重点目標】

【主な取組】

ア 家庭の教育力の向上

- ① 学力向上リーフレットの配布
- ② 家庭学習の手引き

イ 地域の教育力の向上

- ① 放課後児童健全育成事業
- ② 放課後子ども教室事業
- ③ サマースクール事業
- ④ 地域学校協働連携事業
- ⑤ 青少年育成センター事業

学力向上リーフレットの配布

担当課

学校教育課

事業内容・実施状況等

全国学力・学習状況調査を分析し、家庭の教育力向上のため市教育委員会で保護者向けにリーフレットを作成・配布した。各小中学校で課題を明確にし、学校・家庭・教育委員会で学力向上に向けた取組を進めている。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】 「南あわじっ子に確かな学力を！」と題して、家庭で学力を育てるためのポイントをまとめ、全小中学校保護者に向けて配布した。学習状況と生活習慣等の相関関係を示すことにより、家庭のかかわりの大切さや生活習慣の確立などを啓発することができた。小中学校では学力向上に向けた授業改善プランの作成時の参考資料としてリーフレットを活用することができた。また、南あわじ市のめざす教育のテーマ「学ぶ楽しさ日本一」をわかりやすく掲載することができた。

【課題】 全国学力・学習状況調査の結果をもとに、学力と生活習慣等の状況がわかるリーフレットを作成した。今後は、リーフレットを活用し、児童生徒自身が自分の生活や学習を見直していく体制を整えていくとともに、本市及び本組合がめざす「学ぶ楽しさ」を実感できるような学習環境づくりを学校と家庭が連携して進めていく必要がある。

家庭学習の手引き

担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	子どもの望ましい学習習慣や生活習慣の形成に向けて、各学校は発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を配布している。また、市からは「南あわじっ子に確かな学力を！」のリーフレットを配布し、家庭での取組や学習について、学校と家庭の連携を図る。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 各学校において、子どもの発達段階に応じた家庭学習の時間や方法、生活習慣の形成に係る内容や学習指導要領等についてまとめてリーフレットを作成し、令和4年度も配布した。学校と家庭との連携を図り、保護者の教育への意識の向上に取り組むことができた。</p> <p>【課題】 保護者に対しては、学習習慣や生活習慣の形成が重要であることを継続して啓発するために、タブレット端末でチェックできる機能等を取り入れる等、リーフレットの活用に向けてさらに工夫し充実させていく必要がある。また、子どもが主体的に家庭学習に取り組めるように、学校と保護者がさらに連携していくことが大切である。</p>

放課後児童健全育成事業（学童保育）

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	共働き家庭等の小学生の児童（1年生から6年生）を対象として、放課後等に遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図る目的で、市内13か所（学校内9か所、専用施設2か所、公民館内1か所、私立こども園内1か所）で実施した。コロナ禍において、感染症対策を徹底した上で、安心安全な環境を提供した。さらに、支援員への研修会を実施し、資質向上を図った。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和4年度の年間の平均参加児童の数は351人。令和元年度326人、令和2年度342人、令和3年度351人と年々増えており、今後も社会状況の変化による核家族化や共働き家庭の増加によりニーズは増加傾向にある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら家庭に代わる場所として、宿題や読書、遊びなどを通じて異年齢の児童がともに過ごし学び合う機会を創出し、安心安全な環境を提供したことで、子どもたちの健やかでのびのびとした姿等が見られた。また、夏休みには、淡路三原高等学校の生徒や吉備国際大学の学生によるボランティア活動の協力があり、普段関わる機会が少ない世代との交流を図ることができた。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、学校等の施設を活用しつつ安心安全な環境を確保するとともに、遊びの中に学習・体験・スポーツ等のプログラムを取り入れ、放課後子ども教室との一体型を実施しながら、学童保育と放課後子ども教室を融合した「アフタースクール事業」を進めていく。</p> <p>さらに、地域とともに子どもたちの積極性や自立性、社会性、コミュニケーション力を育めるよう「学ぶ楽しさ日本一」の実現に向けて、多様な子どもたちの成長やニーズ等に対応する支援員の知識を養うための人材育成が必要である。また、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減など、経済的負担が増えた世帯調査を踏まえ、生活保護世帯に加え、令和5年度より就学援助世帯への利用料減免措置を行い、経済的負担の軽減を図る。今後もさらなる利用者負担の見直しを検討することが必要である。</p>

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

放課後子ども教室事業

担当課	体育青少年課														
事業内容・実施状況等	市内3校区(辰美・志知・沼島)において、すべての児童(1年生から6年生)を対象として、地域の方の協力を得ながら、異年齢による工作・楽器演奏・スポーツ等、様々な体験プログラムや遊び等を通し、子どもたちが安全で健やかに過ごせる居場所を提供した。														
成果・課題 及び 今後の対応等	<p>【成果】 コロナ禍において、感染症対策を徹底した上で、安心安全な環境体制を整えながら、志知教室では週3回、辰美教室では週2回、沼島教室では週1回の活動を実施し、そのうち辰美教室では、月に1回程度、辰美学童保育との一体型運営を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>比較</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総開催数</td> <td>266回</td> <td>223回</td> <td>↓43回</td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>4,138人</td> <td>3,808人</td> <td>↓330人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】 事業に対する国や県の補助金が毎年削減されているため、事業を拡大するほど一般財源の負担割合が大きくなる。一方で、放課後児童クラブ(学童保育)と放課後子ども教室の両事業を融合したアフタースクール事業への拡大を図るため、事業に参画するスタッフの確保を継続して行う必要がある。</p>			比較	令和3年度	令和4年度	増減	総開催数	266回	223回	↓43回	のべ参加人数	4,138人	3,808人	↓330人
比較	令和3年度	令和4年度	増減												
総開催数	266回	223回	↓43回												
のべ参加人数	4,138人	3,808人	↓330人												

サマースクール事業

担当課	体育青少年課		
事業内容・実施状況等	市内の子どもたちを対象に、地域の多様な経験や技能を持つ人たちの協力や連携により、長期休暇に体験プログラムを計画・実施し、青少年の健全育成を図る。		
成果・課題 及び 今後の対応等	<p>【成果】 コロナ禍において、感染症対策を徹底したうえで、事業内容や参加人数を精査しながら、長期休暇ならではの野外プログラムや体験学習、継続的なプログラムを実施することで、子どもたちに経験の場を提供し、世代間交流を促すことができた。</p> <p>〔参加人数〕 やまの学園 13人 サマーチャレンジ6教室 155人 ・サコッシュにステンシルで絵付け教室 1部13人、2部13人 ・パステルアート 1部15人、2部15人 ・おしゃれなレジン教室 29人 ・アロマソープ作り教室 29人 ・理科実験教室 27人 ・リズムヨガ教室 14人</p> <p>【課題】 中央公民館主催のわんぱく塾事業、玉青館及び埋蔵文化財調査事務所主催のどうたく・歴史体験教室の体験活動内容と調整しながら事業を実施し、スタッフの人材確保を継続して行う必要がある。</p>		

地域学校協働連携事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えるため、地域住民に学校支援ボランティアとして協力をお願いし、市内小中学校の各種授業や学校行事等の運営を支援している。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 校外学習(町探検)の引率、校内マラソン大会の安全管理、小学1年生の下校時の見守り引率、家庭科授業での製作補助(エプロン、ナップザック等)、交通安全教室の補助に加え、自然学校でのカッター訓練の補助、図書室での本の登録やバーコード貼り、ブックカバー付けなど学校における人手不足のための依頼に対する支援を行った。また、ボランティアの確保や活動を広く周知するため、ボランティアが必要な小学校区に募集チラシや活動状況のチラシを配布した。12校の小中学校において、76回の活動となり、令和3年度より29回増加した。 また、新たに3人のボランティアの登録があった。</p> <p>【課題】 引き続き、各地域、校区で活動可能な新たな地域ボランティアの確保に向けて、活動を広く周知することが必要であるとともに、地域に根差した市民交流センターと協力しながら、地域と学校が連携・協働する体制を構築していく必要がある。</p>

青少年育成センター事業

担当課	体育青少年課								
事業内容・実施状況等	<p>青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の適切な実施を期するため、各種団体の長、関係機関が集まり、青少年問題協議会を設置。全ての市民が協力して地域の子どもたちを見守り育てていくまちづくりを推進するため、青少年健全育成市民会議を南あわじ子育てネットワーク推進協議会と共に開催した。 また、青少年補導委員による街頭補導活動の充実、「地域のおじさん・おばさん運動」の推進、学校・地域・関係機関との連携強化を図る活動を展開した。 南あわじ市スマホ・ネット推進委員会を開催し、市内小中学校の全児童生徒に南あわじ市スマホルール等の啓発リーフレットを配布した。</p>								
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 年間を通して、市内各地区の青少年補導委員による一斉街頭補導活動や「地域のおじさんおばさん運動」を継続することで、青少年を有害な環境から守り、非行を未然に防止するものとなっている。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)青少年健全育成市民会議</td> <td>開催(参加者約150人)</td> </tr> <tr> <td>(2)補導委員活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・活動回数</td> <td>127回</td> </tr> <tr> <td>・活動延べ人数</td> <td>606人</td> </tr> </table> <p>【課題】 スマートフォンやインターネットの利用に関して、青少年を犯罪から未然に防ぐことや、特殊詐欺の受け子など、自ら犯罪行為に手を染めることがないよう、ネット利用の危険性や家庭内でのルール作りなど必要な情報を提供してきたが、今後、さらに関係機関・団体等と情報の共有、連携を図りながら、より巧妙になる犯罪の手口から青少年を守っていくため、適切な利用の啓発活動を展開し、周知を図ることが必要となっている。</p>	(1)青少年健全育成市民会議	開催(参加者約150人)	(2)補導委員活動		・活動回数	127回	・活動延べ人数	606人
(1)青少年健全育成市民会議	開催(参加者約150人)								
(2)補導委員活動									
・活動回数	127回								
・活動延べ人数	606人								

基本的方向5 人権文化をすすめるまちづくり

【重点目標】	【主な取組】
ア 人権教育の推進	① 人権教育基本方針に基づく人権教育の推進 ● ② 人権学習会、研修会の開催 ③ 市人権教育研究協議会との連携
イ 人権を身近な課題とするための啓発活動	① 啓発冊子「気づきタウン」の活用 ② 人権啓発フェスティバル等の開催 ③ インターネットモニタリング事業

人権教育基本方針に基づく人権教育の推進

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>市総合計画の施策に基づき、人権文化に満たされたまちづくりの実現をめざして、教育委員会と人権教育研究協議会が連携し、学校・家庭・地域・職場等あらゆる場において、人権教育・啓発に取り組んできた。</p> <p>また、社会情勢の変化による新しい課題に対応し、これまでの取組を整備するとともに、「南あわじ市人権教育基本方針」に基づき、職員や教職員等がその責務を自覚し、人権文化に満たされたまちづくりを先導し、市民にも働きかけていけるよう、研修を通じ、市職員及び教職員の資質向上を図った。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 人権教育基本方針では、人権教育の目標を「確かな人権意識と実践力をもった人づくり」とし、4つの側面(目的、機会、環境、内容)から目標達成を図ることを明確に示した。学校・家庭・地域・職場等の現状を分析し、課題を明らかにするとともに、今後の取組内容を具体的に示した。また、本市の状況やこれまでの取組の過程を踏まえ、8つの重点項目を設定した。</p> <p>人権文化に満たされたまちづくりを進めるにあたり、市職員及び教職員の果たす責務を明確にし、これまで取り組んできた研修の目的、内容、方法等の見直し及び改善を行った。市職員においては、研修の重要性を認識するアプローチを図り、更なる研修の充実化を図ることとした。</p> <p>教職員については、児童生徒の人権を守り育てる教育実践力を向上させるため、キャリアステージに応じた研修を系統的・計画的に実施した。また、子どもたちの人権が守られる学校環境をつくる協働体制の構築に取り組んだ。</p> <p>【課題】 市職員一人一人の人権意識を高め、市民の人権を守るための研修を実施する。総務課、市民協働課、社会教育課が協働して、内容・方法等の検討・改善を行い、差別事象に応じた「対応マニュアル」を作成するなど、全職員が共通理解のできる体制を整える。</p>

人権学習会、研修会の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>(1)地区別人権学習会 身近な生活の場において、解決すべき人権課題や問題があることに気づき、部落差別をはじめとしたさまざまな人権問題の解決に向けた学習活動を実施した。</p> <p>(2)人権学習講座 差別解消三法の施行により、教育・啓発が地方公共団体の責務となっていることから、法律の内容を知り、市職員や教職員としてできることを考える講座やSNS等によるインターネット上での人権侵害の被害者にも加害者にもならないための講座を実施した。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 人権問題が多様化、複雑化している中、人権に関する正しい理解と認識を深めるために「気づこう！まなぼう！ともに歩こう！」をスローガンに、身近な人権問題に気づくことから始められるように人権学習会を実施した。 地区別学習会では、令和4年度は「ヤングケアラー」を重点テーマとし、DVD「夕焼け」を活用して、子どもの人権を守る大人の責任と役割について共に考える研修を実施し、新型コロナウイルス感染予防対策を十分に講じた上で、地区公民館11か所、保育所2か所で開催することができた。 また、差別解消三法の施行や、急激な情報化社会の進化による新たな課題に取り組むために、市職員、教職員研修をはじめとする人権研修会を実施し、法律の理解やSNS等の差別事象の現状を理解し、対応の必要性を学んだ。</p> <p>【課題】 市民の中には、依然として人権学習は難しい、堅苦しいといった意識がある。そのため人権研修会においては、市民に身近な話題を提供し、自分たちに何ができるかを考え、差別解消に向けた行動を促すことが必要である。 新型コロナウイルス感染症拡大による不安から広がる偏見や差別などが顕在化したり、インターネット上の差別が拡大している現状があるように、社会的課題の多様化に伴い、人権課題も多様な観点からとらえ、幅広い年齢層に対し、研修を継続的に実施していかなければならない。</p>



基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

市人権教育研究協議会との連携

担当課	学校教育課・社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>学校教育課と南あわじ市人権教育研究協議会が連携して、南あわじ市で育った子ども達が、確かな人権意識をもち、毅然と行動できる人間として社会に出ていくことができるように、小学校1年生から中学校3年生まで、すべての学校が共通したプログラムのもと教育活動を展開する「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」を実施した。また、南あわじ市人権教育研究協議会と連携した会議や研修会等に小中学校の教職員が参加して研修を深めた。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」の授業研究会について、小学校1、2年生を神代小学校で、小学校3、4年生を阿万小学校で、小学校5、6年生を広田小学校で、中学校1から3年生を西淡中学校で実施した。コロナ禍での実施となり、参加者の規模は縮小したが、南あわじ市人権教育研究協議会と連携した研修会や講演会によって教材研究や指導案検討が充実したものとなった。コロナ禍でなければ、幼稚園・こども園・保育所(園)が小学校低学年の授業参観を、小学校高学年が中学校の授業参観を、中学校が小学校高学年の授業参観を、高校が中学校の授業参観をし、連携を図っている。また、令和4年度は兵庫県人権教育研究大会淡路地区大会を三原中学校で実施した。</p> <p>【課題】 多様性やヤングケアラー、スマートフォンなどによるインターネット上における人権侵害などの新たな人権課題の解決に向け、「道徳教育と人権教育研究プロジェクト」のブラッシュアップを継続しながら小中学校と南あわじ市人権教育研究協議会との連携をさらに深め、教育活動を展開していく必要がある。また、兵庫県人権教育研究大会淡路地区大会等の研究大会で学んだことを、市内でさらに周知していく工夫も必要である。</p>



啓発冊子「気づきタウン」の活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>人権課題が多様化、複雑化している現代社会において、人権に関する正しい理解と認識を深めるために、身近な人権課題に気づくことから始める冊子「気づきタウン」を活用して啓発をおこなう。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和2年度に、項目に高齢者問題、性的指向・性自認、感染症差別、SDGsを追加し、市民が手に取り、読みやすい冊子となるよう改訂した「気づきタウン」を作成し、より多くの市民に読んでいただけるよう、人権学習会や各種イベントで配布した。また、学校教材として活用していただけるよう、市内の小学5年生、6年生に配布した。</p> <p>【課題】 多様化する人権課題に対応していくため、令和4年3月に策定された「南あわじ市人権基本方針」をもとに、「気づきタウン」の改定を検討する。また、「南あわじ市人権基本方針」を周知できるように配布していく。</p>



人権啓発フェスティバル等の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	人と人とが温かくふれあい、つながりの輪を広めることを目的に、8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間、12月の人権週間に合わせ、人権フェスティバルを開催し、啓発活動を推進した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間にあわせて、じんけんサマーフェスティバルを開催した。午前中は、協賛団体が人権啓発運動を行った。また、午後からは、テレビタレントとして、幅広く活躍されている、ナジャ・グランディーバさんをはじめ、イルローザさん、前田良さんによる、講演会「ナジャ・グランディーバと楽しい仲間たち」を行い、性の多様性について、理解を深め自分らしく生きることの大切さについて学ぶことができた。また、12月の人権週間中の人権フェスティバルでは人権作文の表彰式と代表者による朗読を行い、子ども達の作文を通じて、多様な人権文化を学ぶきっかけを作った。</p> <p>【課題】 人権文化をすすめるまちづくりを推進するためには、継続的な啓発事業が必要である。フェスティバルは、身近な話題で人権課題に向き合えるように工夫し、市民の人権意識の高揚に結びついている。令和4年度は、8月に新型コロナウイルス感染症の拡大が下火になったこともあり、入場制限を緩和して、講演会を行うことができた。ライブ、オンラインの啓発効果は、それぞれ一長一短あり、多様な人権課題の解決に向けた啓発をするため、臨機応変に取り組む必要がある。</p>



8月は兵庫県の「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間です

人は一人で生きているわけではありません。ふだんの日常生活で、自分がこんなことをされたらどう思うかと考え、自分がされたら嫌なことを他人にしないことが、人権文化をすすめるまちづくりの第一歩につながります。人権文化は、私たち一人ひとりが創っていくものです。



ナジャ・グランディーバ

兵庫県出身。大阪在住のドラッグクイーン。毒舌を言わない「のんびりオネエ」として、関西を中心に活動中。CBC『ゴゴスマ』やMXX『バラいるダンディ』等のレギュラーや多数のメディアに出演している。MBSラジオ『ナジャ・グランディーバのレゾコフライデー』が、2021年の日本民間放送連盟賞【ラジオ・生ワイド番組部門】にて、優秀賞を受賞。近着に初エッセイ『毎日ザレゴト』（大和書房）がある。



前田 良（講演会司会・進行）

like myself代表。妻と子ども2人の4家族。1982年、兵庫県に「女性」として生まれる。小さい頃から性別に違和感を持ってた。2008年、戸籍上の性別を「男性」にして結婚。AID（性別適合人工授精）により子どもを授かる。出生届が受理されず東京裁判に「戸籍更正許可申立」を行い、裁判を始める。東京裁判、高裁では棄却されるが、最高裁で逆転勝利。性別変更した夫を父親として認める」という画期的な決定を手にする。現在も、多様な性について「間違った知識ではなく、本当のことを伝え知ってもらおう」ため、行脚職員、教職員や保護者、子どもたちを対象に、各地で講演活動を展開。全国を家族とともに走り回っている。

新型コロナウイルス感染防止対策にご協力ください

- ・マスクの着用をお願いします。なお、特段の事情によりマスクが着用できない方は社会教育課へご相談ください。
- ・各所に手指消毒用の消毒液を設置しておりますので、ご活用ください。
- ・人と人との十分な間隔の確保をお願いします。
- ・近接した距離での会話、大声での発声等はお控えください。
- ・会場入口で検温を実施いたしますのでご協力をお願いします。
- ・37.5度以上の発熱や体調不良がある場合はご来場をご遠慮ください。

主催 南あわじ市人権フェスティバル実行委員会

後援 南あわじ市、南あわじ市教育委員会、洲本人権擁護委員協議会
南あわじ市社会福祉協議会、南あわじ市いずみ会（福）淡路島福祉会
カールスワット兵庫東舞95団、NPO法人いちはん星、兵庫県淡路三原高等学校
南あわじ市人権教育研究協議会、南あわじ市連合PTA

基本方針2 安心して学ぶことができる環境の構築

インターネットモニタリング事業

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	インターネット上の差別的書き込み等の差別事象に対して、拡散防止、初動体制の確立、書き込み等の抑止を図るため、令和3年10月からインターネットモニタリングを令和3年10月から週2回継続的に実施した。 インターネットモニタリング実施者研修を実施し、効果的なモニタリングの方法を学んだ。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 インターネットモニタリングの研修を実施し、市民協働課と社会教育課の2課が協力して継続的にモニタリングに取り組めるよう知識の向上を図った。インターネット上の差別的書き込みを38件確認し、削除要件を満たす書き込み等に対し、削除要請を行い、書き込み削除に至った事例もあった。</p> <p>【課題】 インターネット上には、人権に関わる悪質な書き込み等が年々増加している。モニタリングにより、実情を把握し、書き込みを抑止するための啓発事業を進める必要がある。また、インターネット上の人権侵害が発見された場合は、人権相談等行動連携会議と連携しながら取り組んでいく必要がある。</p>

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるための学びと場の充実

基本的方向2 伝統文化(芸術)の伝承と発展

基本的方向3 スポーツに親しむ環境づくり

基本的方向1

主体的に生きるための学びと場の充実

【重点目標】

【主な取組】

ア 学びの充実

- ① アフタースクール事業
- ② 夢プロジェクト
- ③ 淡路三原高等学校地域活動支援事業



イ 社会教育施設の充実

- ① 社会教育施設の整備
- ② 展覧会事業や関連事業の開催
- ③ 資料の保存、管理
- ④ 図書館資料の充実

アフタースクール事業

担当課

体育青少年課

事業内容・
実施状況等

放課後、子どもが自ら考え主体的に行動し、判断できる力やコミュニケーション能力の向上、ふるさとをよりよく知り、誇りに思う心を育てることを目的に、放課後児童クラブ(学童保育)と放課後子ども教室の両事業を融合したアフタースクール事業を実施。安心安全な環境を確保するとともに、「まちの先生」といった地域の人材を活用しながら、遊びの中に学習・体験・スポーツ・文化等の各種体験プログラムを取り入れることで、子どもたちが自ら選択し、興味・関心や夢を持ち、「なりたい自分を見つけることができる」居場所を提供し、「学ぶ楽しさ日本一」の実現をめざす。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底した上で、専門講師や45名が登録されているまちの先生、団体による多種多様な体験プログラムを実施し、学ぶ楽しさを感じられるきっかけづくりを提供した。

実施校区を八木・広田・湊・倭文・阿万の5校区から、神代・福良を加えた7校区とした。プログラムの内容は、プログラミングやダンス、動画制作、将棋、そろばんなどの継続プログラムや、卓球バレーや車椅子バスケ等のユニバーサルスポーツ、FC、AWJによる運動教室を実施した。このほか、地域の方を講師とした「まちの先生」の募集を行い、各拠点において、まちの先生によるウクレレ、バードウォッチング、エプロンシアター等を実施し、日々のプログラムの充実を図ることができた。さらに、令和3年度に引き続き、非営利特定法人(放課後NPOアフタースクール)に運営支援を委託し、スタッフの人材育成、プログラムの発掘、実施補助などのサポートもあり、今後の事業拡大に向けての準備や体制づくりに努めることができた。

比較	令和3年度	令和4年度	増減
プログラム総開催数	813回	1,407回	↑594回
のべ参加人数	12,202人	18,234人	↑6,032人
実施校区	5校	7校	↑2校

【課題】 学校等の施設を活用しつつ、事業拡大に向けて、体験会の実施や活動紹介などを市民に周知することが必要である。また、多種多様な体験活動に対応できる事業スタッフの確保及び人材育成のための研修開催のほか、学校でも家庭でもない第三の居場所として、子どもたちが主体的に学ぶ楽しさを感じられるような、安心して利活用できる環境整備の検討も必要である。



音楽体験（シンガーソングライターと）



読書活動



銅鐸のおはなし



銅鐸レジンづくり



パステルアート



手話学習



スポーツ教室



フラダンス



ダンス



ニュースポーツ体験（ボッチャ）



車椅子バスケット

夢プロジェクト

22ページにも記載

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	<p>小中学生を対象に、著名なスポーツ選手・文化人等を講師として招き、スポーツや文化の魅力や楽しさ、努力することの大切さを感じてもらうとともに、また友達を大切にする心を育み、大きな夢を持って今後の活動と豊かな生活を送ってもらうことを目的に実施した。</p> <p>派遣学校 中学校 3校(西淡中・南淡中・沼島中) 小学校 4校(阿万小・沼島小・広田小・倭文小) 続編 少年野球教室、Vリーグ観戦</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 小学校4校と中学校3校に対し、著名なスポーツ選手・文化人を講師として派遣した。学校からは、講師の印象的で勇気づけられる言葉や迫力のある実技を見てその刺激を受け、「子どもたちが将来の夢に向かって前向きに取り組もうとする良いきっかけになった。」等の感想があった。また子どもたちからも「あきらめずにがんばる。」「コツコツと努力してがんばる。」などの感想が寄せられ、子どもたちの豊かな心を育む良い機会を提供できた。三原中学校と広田中学校は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。また、これまで協力いただいたスポーツ選手や文化人からの応援メッセージで子どもたちを含め多くの市民が勇気づけられた。</p> <p>(1)講師 お笑い芸人(西淡中) 増田英彦 元プロ野球選手(南淡中) 関本賢太郎 柔道選手(沼島小中) 阿部一二三、阿部 詩 ダブルダッチ(広田小) 牧島一輝、寺島 賢、北尾日菜、本行彩芽 ダブルダッチ(阿万小) // ポーカールグループ(倭文小) 大石 学、中井貴弘、宮本真人、長宗功哉</p> <p>(2)特別企画 ・Vリーグ大会観戦並びにバレーボール教室 開催日:令和4年11月26日(土)、27日(日) 場 所:文化体育館 内 容:2021-23 V.LEAGUE division2 兵庫・南あわじ大会観戦 バレーボール教室 ※新型コロナウイルス感染予防の為中止 講 師:Vリーグチーム4チーム 兵庫デルフィーノ他</p> <p>・少年野球教室 開催日:令和4年12月3日(日) 場 所:三原健康広場 グラウンド 講 師:オリックス・バファローズ選手 近藤大亮、山田修義、阿部翔太、K-鈴木、宗 佑磨 福田周平、杉本裕太郎</p> <p>【課題】 限られた予算内で、学校や子どもたちのニーズに応じた講師を依頼することや、お越しいただいた講師にも本市の良さを感じていただくとともに、本市の魅力を全国に発信していただけるような試みが今後の課題である。</p>



少年少女野球教室
オリックス・バファローズ(三原健康広場)



近藤大亮選手、山田修義選手、阿部翔太選手、
K-鈴木選手、宗 佑磨選手、福田周平選手、
杉本裕太郎選手



お笑い芸人 増田英彦氏（西淡中学校）



元プロ野球選手 現在スポーツ解説者 関本賢太郎氏（南淡中学校）



オリンピック金メダリスト 阿部一二三選手 阿部 詩選手（沼島小中学校）



NEWTRADダブルダッチ（広田・阿万小学校）



ボーカルグループ グリーナーハイハーモニー（倭文小学校）

淡路三原高等学校地域活動支援事業

<p>担当課</p>	<p>教育総務課 ・ 体育青少年課</p>
<p>事業内容・実施状況等</p>	<p>南あわじ市、淡路三原高等学校、淡路景観園芸学校、国立淡路青少年交流の家の4者は「南あわじ市の地域創生にかかる包括連携協定」を令和3年3月締結した。淡路三原高等学校はこの連携協定を効果的に活用し、「総合的な探究の時間」の授業で地域の魅力・課題を発見し、分析・提案を行う。市の事業等に高校生が参画することで、淡路三原高等学校の新たな魅力を発信するべく生徒の主体的な取組を活性化し、市の地域振興や課題解決につながる活動を行っている。</p> <p>また、市内唯一の高等学校で行っているこれらの活動は、将来の南あわじ市の持続的な発展に寄与できる人材育成へとつながる取組であるため、補助金を交付し支援を行う。</p>
<p>成果・課題及び今後の対応等</p>	<p>【成果】 淡路三原高等学校では、市役所訪問や市職員の講義等により市の事業内容や課題等を直接聞く機会を設けたことで、市の施策や課題について生徒自身が問題意識を持つことができた。また、淡路景観園芸学校から講師を招き、生徒自身が今後取り組むテーマについての理解を深めるための学びの機会を設けることができた。さらに、「総合的な探究の時間」で3カ年のカリキュラムを組み、1年生と2年生で取り組んだ課題をまとめて、2年生と3年生がプレゼンテーション形式で発表し、探求をより深める取組につなげることができた。教育委員会では、包括連携協定における4者間の調整を担い、令和5年度以降の活動促進への支援を行った。</p> <p>【課題】 淡路三原高等学校では、実際に課題を抱えている地域拠点の視察や現地での意見聴取等、地域の中に活動範囲を広げることで、地域との結びつきを強め、地域の現状をより深く理解できる取組を行い、様々な提案をまとめることができたが、提案を実現するための取組へとつなげることが今後の課題となる。</p>

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

基本的方向1 主体的に生きるための学びの場の充実

社会教育施設の整備

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市内の社会教育施設の長寿命化を含めた公共施設等総合管理計画に基づいた個別施設管理計画を計画的かつ効果的に策定し、各施設の修繕や改修等を実施しながら維持管理を行う。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和4年度は、市立図書館前広場公園整備工事及び同施設場内水中ポンプ更新工事、玉青館エレベーター更新工事及び2階改修工事の設計等を行った。</p> <p>【課題】 個別施設整備計画を策定したが、すべての施設が老朽化しており、不測の修繕が生じる状況であり、今後、施設の長寿命化を見据え、総合的な施設整備計画を検討する必要がある。</p>

展覧会事業や関連事業の開催

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>美術館では、松帆銅鐸に関連した特別展や郷土の歴史遺産を活用した展示、優れた美術品等の展覧会を計画的に企画し開催する。</p> <p>多目的室では、指定文化財のお披露目展のほか、鑄造体験やレジンアクセサリー教室、ワマグネットなど、銅鐸に関連した体験型ワークショップやVR(仮想現実)コンテンツを活用し、幅広い世代が楽しみながら学習できる機会を提供する。</p> <p>資料館では、淡路人形浄瑠璃の展示を基本として、コアカリキュラムに対応し、小中学生の学習にあわせた内容や淡路人形浄瑠璃後継者団体の歴史や活動等の企画展を開催する。また、故鶴澤友路師匠に関する資料や郷土にゆかりのある書画等の展覧会を企画し、幅広い世代が学ぶことのできる事業を展開する。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 美術館では、松帆銅鐸の常設展示室が2階にオープンしたことによって、考古学や歴史に関心のある今までと異なった客層が増加した。また、趣向を凝らした多彩なワークショップを開催することで、入館者の増加につなげることができた。</p> <p>資料館では、淡路三原高校郷土部創部70年記念特別展、淡路人形名場面の展示、子どもの淡路人形絵画展等を実施し、淡路人形浄瑠璃の啓発活動と郷土への誇りを持てる展示を実施することができた。</p> <p>【課題】 美術館では、今まで2階展示室で絵画の特別展を行っていたが、松帆銅鐸の展示室をメインとした空間に改修したため、絵画の特別展を開催することが困難になった。</p> <p>資料館では、淡路人形の頭のひび割れなど、所蔵資料に劣化が見られる。今後、修繕が必要な資料の調査を行い、計画的に修繕を行なっていく。また、展示のパンフレットを作成して広報活動にも力を入れていく。</p>



銅鐸カリンバの森展



夏季特別展
(松帆銅鐸全7点初公開)



カリンバ演奏会

資料の保存、管理

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	美術館では、故直原玉青画伯に関する美術資料及び資料並びに令和5年3月に県指定重要有形文化財に指定された松帆銅鐸を中心に貴重な文化財資料の保存管理を行う。 資料館では、淡路人形浄瑠璃に関する資料及び貴重な郷土資料の保存管理を行うとともに古文書及び写真資料のデジタル化等の新しい手法による保存管理方法についても研究していく。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 美術館では、保存処理を終えた全7点の松帆銅鐸を令和4年度夏から常設展示しながら保管を行っている。美術資料についても、適切な温湿度を維持し、収蔵庫の害虫駆除・防カビ殺菌のために燻蒸作業を行うなど、適正な管理を行っている。 資料館では、寄贈と寄託の床本の整理と故鶴澤友路師匠の寄託資料(床本・レコード・カセットテープ・オープンリール・CD・ビデオ・本・番付表・パンフレット等)の調査を大阪公立大学の久堀先生の協力を得て、目録400冊を作製し、関係者をはじめ、大学図書館、公立等図書館にも配布し人形浄瑠璃の保存伝承に役立てた他、現在もその他寄託資料の整理を進め、美術館と同様に収蔵庫の燻蒸作業を実施した。</p> <p>【課題】 美術館では、収蔵庫の空きスペースが少なくなってきたため、今後、寄贈や寄託があった場合に資料の内容を精査し、受入れの判断をする必要がある。現在、施設の老朽化が進んでいることから、収蔵スペースの確保も含め改修計画を進めている。令和5年度には2階展示室を国指定重要文化財の展示が可能な水準の展示室へと改修工事を行う予定。資料館では、寄贈・寄託の資料の量が多く、デジタルデータ化できずにいたが、今後は友路師匠の音源などをデータ化し、淡路人形座や後継者団体の稽古への活用や、小中学校におけるコアカリキュラムの教材としての活用も検討していく。文化財保護法に規定されている文化財の保存、活用を図り、今後も市民の文化的向上を図るとともに、世界文化の進歩に貢献することに取り組んでいく。</p>

図書館資料の充実

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市立図書館と中央・広田・湊公民館図書室の4カ所で連携を強化し、課題の解決や効果的な施設の管理運営を図るとともに、蔵書の充実や利用者サービス向上により読書活動を推進する。季節の話題や時事問題を絡めた利用者の興味をひく「おすすめ図書コーナーの充実」、「ボランティアによる絵本の読み聞かせ」、「ブックスタート事業」等を行い、幼少期から図書にふれあう機会を増加を図る。また、読書推進の一環として南淡中学校及び沼島小中学校に定期的に配本を行い、読書に親しめる機会を広げる。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 蔵書数321,139冊で前年比3,801冊増。1館3室の連携の強化により年間貸出冊数は174,392冊(前年度比0.7%増)。貸出利用人数は図書館システム更新により休館日が多かったため延べ40,700人(前年度比2.2%減)となっているが、カウンター体験、読書の秋イベント全国訪問おはなし隊、図書館どうたくまつりイベント等の開催により、来館者数増に寄与した。 また、「読み聞かせ会」、「おはなし会」、「ブックスタート事業」等他のイベントも可能な限り実施し、コロナ禍の中、感染防止徹底により利用者サービスの低下も防ぐことができた。さらに、「市民交流センターでの図書貸出・返却サービス」も軌道にのり、市民がさらに幅広く読書に親しむ機会を提供することができた。</p> <p>【課題】 図書館サービスの根幹である蔵書の収集・保存・提供を充実させることが、市民の学習活動の支援や読書活動に役立つ資料の収集、選書、利用者へのサービスの充実につながっていくと考えられる。そのためには、図書館、図書室のより一層の連携強化が不可欠であり、多様性の求められる時代に何が必要かを的確に判断し、読書活動の一層の推進を図っていく。 今後、読書活動推進の拠点として、学校図書室等の連携による「うちどく」の推進、すべての年齢への切れ目のない読書支援、来館者増加につながる事業の定期的な開催を目標に、何度でも行きたくなる図書館、図書室をめざす。</p>

基本的方向2

伝統文化(芸術)の伝承と発展

【重点目標】

【主な取組】

ア 体験を通して学ぶ伝統文化(芸術)の伝承と発展

- ① 子ども伝統芸能発表会
- ② 淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興
- ③ 南あわじ音楽祭

イ 文化財の保存と活用

- ① 歴史文化遺産の保存、整備と活用
- ② 地域に根ざした歴史体験活動の推進
- ③ 松帆銅鐸の調査研究、普及啓発



子ども伝統芸能発表会

担当課

社会教育課

事業内容・実施状況等

伝統文化の継承と市民の関心を深めるために、市内の小学校・各地区の伝統芸能保存団体等の子ども達による発表会を実施する。子ども達の郷土の歴史、伝統、文化に対する関心や理解を深めるとともに、それらを尊重する態度や豊かな人間性を育む。また、各小学校・各地域の垣根を越えた子ども達の交流を行い、南あわじ市の伝統文化を守り伝え次世代を育成する。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】 出演希望のあった7団体にて実施。新型コロナウイルス感染症の影響により、以前より規模を縮小したものの、3年ぶりに開催できた。

【課題】 令和3年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の伝統芸能については、年間を通して練習ができない状況が続いている。発表会に向けての練習で上級生から下級生に教える機会が失われるなど、伝統芸能の継承にも影響が出るのが考えられるため、伝統芸能を発信する場や保存団体の交流の場の確保が引き続き課題となる。

淡路人形浄瑠璃の保存伝承と振興

担当課

社会教育課

事業内容・実施状況等

国指定重要無形民俗文化財「淡路人形浄瑠璃」の保存団体(公財)淡路人形協会への支援を継続するとともに、保存伝承や若い世代の関心を高めるため、兵庫県内の小学生が淡路人形座で鑑賞し、その魅力を体験するために必要な経費の一部を助成する。また、淡路人形浄瑠璃の保存伝承活動を振興するため、人形劇の友・友好都市国際協会(AVIAMA)に加盟の都市間で相互に文化交流を行い、市民の人形浄瑠璃に対する意識の高揚をめざす。また、小中一貫して取り組むコアカリキュラムにおいて、子どもたちが、将来にわたり地元を愛し誇りを持ってもらいたいとの思いから、令和4年度も淡路人形浄瑠璃体験教室事業補助金により、多くの児童・生徒が淡路人形浄瑠璃を鑑賞できる機会を創出した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、淡路人形浄瑠璃体験教室事業では、15団体471名の利用があり、昨年に比べて299名の減となった。また、人形劇の友・友好都市国際協会(AVIAMA)に加盟の都市間での文化交流はWeb会議で意見交換会を2回行ったのみとなった。

【課題】 郷土芸能の保存伝承については、小中学校等と連携を図りながら、後継者育成に取り組んでいる。しかし、社会体育や文化活動への参加等、市民の活動の多様化により、保存伝承活動が減退傾向にあるとともに、後継者不足及び指導者不足といった課題を抱える団体が増加している。伝統芸能の保存伝承活動のためには、伝統芸能を体験できる機会を増やし、伝統芸能の魅力を周知していく必要がある。また、保存団体間の交流の場を作り、情報交換をする必要がある。

南あわじ音楽祭

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	市民の参画により、一流の音楽に触れることができる音楽祭や、音楽をはじめ広く文化活動をしている個人や団体が参加できるイベントを行う。また、南あわじ市出身の音響学者、田中正平博士の功績を広く発信する。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和5年度に実施予定の第10回南あわじ音楽祭のプレイベントとして、歴代の南あわじ音楽祭オーディション入賞者を招きコンサートを行った。新型コロナウイルス感染症予防対策のため入場者数の制限を行ったが、約3年半ぶりに音楽祭事業を実施することができた。また、関連事業として若人の広場公園、じゃのひれアウトドアリゾートでミニコンサートを開催し、市民が音楽を身近に感じられる機会を創出することができた。</p> <p>【課題】 南あわじ音楽祭事業は、令和5年度で第10回の節目を迎えることとなる。南あわじ音楽祭事業としては一旦区切りとなるため、新たな担い手の迎え入れや新規事業の企画立案等を行う必要がある。</p>

歴史文化遺産の保存、整備と活用

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>定期的に文化財保護審議会を開催することにより、市内に点在する指定文化財等の適正な保存管理及び保護、新しい文化財の指定等の審議及び答申を行う。</p> <p>慶野松原保存整備委員会においては、名勝地としての適正な保存管理等を審議し、白砂青松の景観維持に努める。また、次世代へ慶野松原の素晴らしさを語り継げる文化財活用を進める。</p> <p>ほ場整備等の開発事業に伴う埋蔵文化財調査を適正に行い、その保護に努める。</p> <p>調査成果については、定期的に報告書を刊行するとともに公民館等での速報展やパンフレット配布により、一般公開し、郷土の歴史の学びの場や文化財に触れられる機会を提供する。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 令和4年度、3件の文化財が審査会の慎重な審議及び答申により市指定を受けることができた。国指定名勝慶野松原においては、保存管理計画に基づき、適正な保全を行い、白砂青松の景観維持に努めることができた。また、学習イベントの実施により、幅広い年齢層の市民に慶野松原の良さを知っていただくことができた。ほ場整備事業をはじめ市内各所での開発事業に伴い、埋蔵文化財調査を実施し、適切に分布調査や確認・試掘調査、発掘調査を完了することができた。また、埋蔵文化財調査で出土した遺物や写真記録の展示会を開催し、広く市民に調査成果を公開することができた。</p> <p>【課題】 市内には多数の文化財が存在し、今後、適正な保存管理のため、よりきめ細かな状況把握に努め、計画的な保存・管理対策を講じていく必要がある。</p> <p>市民講座及び学習イベントの開催や文化財の活用により、多くの市民に文化財の魅力を身近に感じてもらえるような事業を展開していくことが必要である。併せて、市内に点在する淡路島日本遺産の構成文化財を有効活用し、広くその魅力を届ける必要がある。</p> <p>また、ほ場整備事業等による開発面積の増加により、出土遺物量が急増しており、資料整理と調査成果の作成が遅れている。今後は、計画的に業務を行い、適正な資料管理に努める必要がある。</p>



基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

地域に根ざした歴史体験活動の推進

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>松帆銅鐸の発見を機に歴史体験イベントを開催している。今後も幅広い年齢層が楽しめるイベントとして、勾玉作り、ミニチュア青銅器の鑄造体験、バッジ作り、VR体験等のワークショップを通じ、淡路島の歴史とその魅力を直接肌で感じてもらえるように、より一層内容の充実を図る。</p> <p>また、歴史を活かしたまちづくり実行委員会との連携を深め、市民や企業の創意工夫によるグッズづくりや普及啓発活動を展開し、官民一体となり、市民の郷土愛を育む。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症の懸念から少人数のイベントを数多く開催した結果、講師が参加者に対してきめ細やかなコミュニケーションを取ることができ、満足度の高い活動が増えた。また、吉備国際大学の学生も学校の特色を活かした活動に取り組むなど新しい展開が見られた。</p> <p>【課題】 他課で実施している小学生向け事業や学校とも連携し、子どもたちに多様な学びの機会を提供するとともに、大人向けの講座も充実しながら「学ぶ楽しさ日本一」の目標を推進していきたい。</p>

松帆銅鐸の調査研究、普及啓発

担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	<p>松帆銅鐸の調査研究による成果を、研究機関や専門家等に情報提供し、これまでの銅鐸研究に反映し、活用することで、南あわじ市の歴史をひもとく学習活動の機運を高める。</p> <p>令和2年度以降、順次、松帆銅鐸の一般公開に伴う展覧会事業を実施するとともに、今後、淡路島日本遺産とも関連づけながら、他地域の銅鐸との比較や弥生時代の青銅器をテーマにした市民講座や講演会等を開催し、すべての銅鐸が揃うまでの期待を途切れさせない工夫を行うように努める。</p> <p>銅鐸が多数出土し、淡路島同様の国生みに関わる神話をもつ出雲との「弥生ブロンズネットワーク」や他の銅鐸出土地とのネットワーク形成、青銅器に関するシンポジウム等で古代イベントを行う自治体や団体との交流を促進し、銅鐸を含む青銅器の周知を図っていくと同時に、市内の歴史文化遺産を活用する。</p> <p>銅鐸をはじめとする市内出土の青銅器ミニチュア鑄造体験、消しゴム作り等、子どもから大人まで楽しめるワークショップをさらに充実するとともに、解説やワークショップに関わるボランティアの人材育成を図りながら、市内外で行うイベント等を企画し市民参画を呼びかけ、学習と体験を通じて、「青銅器といえば南あわじ市」となるよう、青銅器への関心や知識の向上を図る。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 「松帆銅鐸調査報告書Ⅰ」の反響は大きく、完売となった。また、国指定をめざし、文化庁や県と協議をしながら松帆銅鐸展示室を開設したことで、来館者が専門知識がなくとも銅鐸や市の歴史を理解する一助になった。また、市ホームページ内に市内歴史文化遺産の検索サイトを構築した。このサイトは、小中学校でのタブレット端末での学習に対応しており、子どもたちにとって、よりよい学習環境を整えたことで、南あわじ市の歴史の魅力の情報発信を行うことができ郷土愛を育む契機となった。</p> <p>【課題】 公民館や小学校などで開催する出前講座の回数が少なくなった。出前講座のことを知らない教職員もおり、学校関係者への周知が必要。分かりやすいイラストや身近な遺跡を取り入れ、積極的に学校や公民館に開催を呼びかけ啓発を行う必要がある。</p>

青銅器
ニチュア
鑄造体験



パステルアート



どうたくデコ



レジンアクセサリー



龍の絵を描こう

基本的方向3

スポーツに親しむ環境づくり

【重点目標】

【主な取組】

ア 生涯スポーツ等の推進

- ① 市民スポーツの振興
- ② 体育協会主催大会の開催

イ 社会体育施設・設備の環境整備

- ① 温水プール運営事業
- ② スポーツ施設の適正管理
- ③ 学校施設の開放事業

市民スポーツの振興

担当課

体育青少年課

事業内容・
実施状況等

新型コロナウイルス感染症予防対策を行い、市民スポーツの核となる社会体育施設・学校体育施設の利用を市民に促し、スポーツ活動の活性化を図る。
スポーツで地域振興に取り組むスポーツ推進委員の研修会(ボッチャ・スナッグゴルフ)を開催し、ニュースポーツ体験を各地域で行うなど、市民一人一人が様々な機会を通じて生涯スポーツを実践することにより、健康で、豊かな生活が送れるよう生涯スポーツの振興を図る。国は令和5～7年度までの3年間を改革推進期間として、中学生の休日の学校部活動を段階的に地域クラブに移行していく方向性を示した。当市は、学校部活動の地域連携、地域移行を3年間という期間を限定せず、できるところからできる範囲で進めていく。
令和9年5月に開催延期が決定されたワールドマスターズゲームズ2027の公式競技、ビーチバレーの競技会場となるため、各種団体との連携及び機運醸成に取り組む。

成果・課題
及び
今後の対応等

【成果】 新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら、施設利用を市民等に促したところ、定期的に継続して利用する団体や島外からの利用者も増加し、地域住民等にとって身近なスポーツの活動場所として、スポーツセンター施設を提供することができた。
スポーツ推進委員に5回の研修を実施、市民向けにニュースポーツの普及促進を行なう等、各地域で様々な生涯スポーツを体験する機会を提供することができた。(9回、523名、モルック、スナッグゴルフ、グラウンドゴルフ)
関係団体への説明を行い、令和4年12月に当市の文化やスポーツの関係者等による協議会を設立。中学生の受入団体となる地域クラブと連携し、受入可能団体や部活動への指導者派遣可能団体の把握を行った。令和5年4月から部活動の加入の有無、地域クラブへの参加等の開始に向けた調整を行った。
毎年6月末ごろ開催のビーチバレー大会に併せて、機運醸成事業としてニュースポーツ体験会を開催し、約150人の市民にワールドマスターズゲームズ2027の普及啓発を行った。

【課題】 コロナ禍が落ち着き、市民の多様なスポーツのニーズに応え、誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の整備計画を立案し、安心・安全に活動が行える環境を整備する。さらに利用者数の増加に向けた啓発等を行うとともに、維持管理コストの低減をめざす。
モルック等のニュースポーツの用具も整備し、より多くの市民にニュースポーツの普及と利用促進を図ることで、市民の健康増進をめざす。
関係団体や市民等に周知を行い、理解を深めてもらうとともに、部活動の地域移行に伴う様々な課題(活動場所、費用負担、担い手等)に対する支援についても検討していく。
世界的な生涯スポーツの祭典であるワールドマスターズゲームズ2027関西ビーチバレー競技が開催延期となったため、市民とともに培ってきた機運を絶やさないように、さらなる普及啓発に努め、生涯スポーツの振興を図る。

体育協会主催大会の開催

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いてきた令和4年秋ごろより、感染対策を講じた上での事業開催が可能となった。主催事業として3年ぶりにスポーツ大会、体力測定会、ランニングフェスティバルを開催した。また、活動の再開に伴う事故やケガが増えることを想定し、救命講習としてAEDの使用法や応急処置法を学ぶ研修会も開催した。</p> <p>種目協会主管の大会は12回、地区主管の事業は7回開催した。障がい者スポーツの普及にも取り組むため、周知・理解・啓発を目的とした講習会を開催した。</p> <p>今年度は、初めてジュニアアスリートのケガ予防のための講習会を開催した。気軽にスポーツに取り組めるきっかけと、施設利用を促進することを目的としたスポーツ備品の無料貸出事業は、備品数を増やし継続して取り組んだ。</p>
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 スポーツ大会ではパラスポーツのポッチャを取り入れ、3歳から76歳の幅広い年代が交流する場にもなった。ランニングフェスティバルでは、島外・県外からの参加も含めコロナ禍前の6割を超える352人の参加があり、上位入賞者への副賞として、市内の特産品を用意し、南あわじ市のPRにもつなげることができた。ジュニアアスリートの講習会には小学生、保護者、指導者が125人参加した。なお、スポーツ備品貸出事業は1か月で平均30件程度の利用があり、スポーツ施設の利用促進に寄与することができた。</p> <p>【課題】 市民全般に向けての情報発信が、年1回の広報誌とSNSでの発信であり、当協会への認知が十分に行き届いていないと感じる。今後はホームページを立ち上げて情報発信、意見収集を行い、イベント参加者からのアンケート回答も含めて団体運営を検討する。</p>



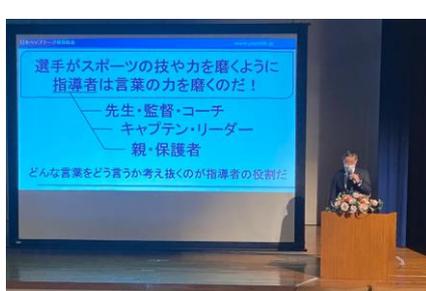
ニュースポーツ体験会



南あわじ市体力測定会



ポッチャ



ペップトーク講演会



全淡路スポーツ大会南あわじ市予選会



夏休みファミリースポーツ体験会

基本方針3 生涯を通じて学び続ける地域の創生

温水プール運営事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	平成30年度から5年間、(株)エヌ・エス・アイを指定管理者として引き続き管理運営を委託している。自主事業として、幼児から大人までを対象とした水泳教室を開設し、市民の体力向上および健康増進を図るとともに、選手の育成や競技力向上にも取り組み全国大会出場者も輩出している。また、施設設備の経年劣化等に対応するため、ヒートポンプ温水器の更新、屋内の照明器具改修工事を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 建設から25年以上経過し、施設および設備の老朽化が進行する中、指定管理者と協議を行い、計画的に修繕工事を実施したことで、利用者にとって安心・安全な施設づくりをめざすことができた。また新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、利用者数は概ね前年度を維持することができた。</p> <p>【課題】 プールの水温を調節する設備であるヒートポンプ温水機器を順次更新している。6基のうち未更新の2基については耐用年数を経過しており、故障した場合、施設の運営に大きな支障をきたしてしまうことから、今後も年に1基ずつ更新し、早急に整備する必要がある。また、シャワー、スライダーなど他の設備の状況も把握し、利用者にとって必要性の高い設備から修繕等を進めていく必要がある。</p>

スポーツ施設の適正管理

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	スポーツ施設の維持管理は、優先順位をつけて施設の整備計画に基づき修繕等を進めることとし、賀集スポーツセンターフェンス改修工事、文化体育館非常用自家発電設備整備工事、文化体育館移動式バスケット台1対購入等を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 施設及び設備の老朽化に伴い、緊急性や情報提供をもとに計画的に修繕工事を実施することができた。</p> <p>【課題】 スポーツ施設の利用実態に応じた施設の適正配置を行うため、個別施設計画を策定し、それをもとに修繕等を進めていく。また、新型コロナウイルス感染症や人口減少、少子化等をはじめとする社会情勢の変化、各施設の利用状況等を考慮して、計画を適宜変更するなど適正な維持管理を行う必要がある。</p>

学校施設の開放事業

担当課	体育青少年課
事業内容・実施状況等	学校教育活動に支障がない範囲で、市内の学校施設(体育館・グラウンド)を開放し、市民が身近でスポーツ活動を行う場を提供している。新型コロナウイルス感染症予防対策を実施しながら、利用者が安心・安全に施設を利用することができる環境を整備した。
成果・課題及び今後の対応等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染症予防対策のため、各学校施設に消毒液の設置や利用者名簿管理等の利用条件の遵守を徹底し、利用者が安心・安全に利用することができるようにした。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、学校施設の利用者数がコロナ禍以前と比べ減少した。市民の健康増進を図るためにも、学校施設の利用促進を図る必要がある。</p>

評価委員の意見

南あわじ市教育に関する事務の点検及び評価委員会委員

森 健太郎

仲 山 恵 博

郷 野 祐 佳

学校教育について

- 主な取組として、特に「着衣水泳」が挙げられているが、自分の身を守る方法等を習得する水泳授業の中の一つであるので、「着衣水泳」に特化する必要はないのではないか。
- 令和4年度は、学校司書2名が配置されたが、このような専門的分野を担う職員の増員は、学校現場にとって大変貴重である。教職員の負担を軽減し、専門的分野の教育をより深めることができるため、今後も専門職員の配置について積極的に取り組まれないか。
- 多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを提供するため、1人1台のタブレット端末等を活用しての教育が行われている。しかし、「誰一人取り残すことなく」を実現するためには、不登校児童生徒等の学習保障が必要であり、当該児童生徒を多面的にサポートする職員の配置が必要ではないか。
- 統合型校務支援システムについて、更新によるセキュリティの強化により、活用に制限がかかっている状況がある。各学校の状況を把握し、教職員がより活用しやすいしくみの構築を進められたい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事の縮小が行われてきた。ウィズコロナの現在も、縮小したままとなっている行事が見受けられる。この機会に行事のあり方を見直し、子どもが学校行事を通じて経験する機会を必要以上に縮小してしまわないよう、配慮いただきたい。
- 近年、多様な性のあり方について、教職員や児童生徒の間でも理解が進み、現在、市内中学校では性差の少ない制服への更新を数年後に見据えて進めている。制服の更新のみならず、更衣室、トイレ、校則等、時代に即した改善に取り組まれないか。
- 南あわじ市サテライト講座をはじめ、教職員への様々な研修が実施されているが、受講アンケート等により研修の効果を検証してはどうか。教職員が自ら進んで楽しく学び、資質向上につながっていくよう充実した研修の実施を期待する。また、教職員による自主研修グループの活動が活発になるような働きかけをされたい。

- 不登校児童生徒は、学校の行事に参加できていないことが多く、学校生活への復帰に不安を感じているため、そのような側面からのサポートが学校側に必要とされている。

社会教育について

- 放課後児童健全育成事業（学童保育）、放課後子ども教室事業、アフタースクール事業は、小学生の放課後の居場所づくりや、充実した放課後時間を提供する事業であり、それぞれ丁寧に取り組んでいる。最終的にアフタースクール事業へ移行していくためには、コーディネーターの役割が重要になってくるため、人材の確保及び育成を図りたい。
また、利用料減免措置について、生活保護世帯、就学援助世帯に加え、多子世帯に対する実施についても検討されたい。
- L G B T Qをはじめとする性的少数者への理解は、本市で先進的な課題として取り組んできた結果、学校や市民へ浸透してきつつある。今後も、教職員の正しい知識、深い理解に向けた取組を行うとともに、小中高生の人権意識をさらに高めるアプローチを図りたい。
- 夢プロジェクトは、子どもたちが前向きに将来の夢に向かって取り組もうとする心を励まし、豊かな心を育む大変素晴らしい事業である。今後も継続して子どもたちの夢を応援する取組を継続されたい。

まとめ

令和4年度において取り組んだ各事業については、関係機関と連携して、きめ細やかに実施されている。一方で、それぞれの事業において、人材育成及び財源確保に苦慮しており、今後の大きな課題となっている。

学校教育では、子どもたちが楽しく学校生活を送るためには、教職員が働きがいのある職場であるかどうかということの影響が大きい。

教職員の働き方改革を進め、教職員が子どもたちと関わる時間を十分に持てる環境下で、子どもたちのみならず教職員も「学ぶ楽しさ」を実感し、充実した学校生活を過ごすことができる学校づくりが進むことを期待している。

社会教育では、ネット社会の進展による新たな問題（いじめ、人権侵害、個人情報拡散等）が発生しており、対応が求められている。教育行政、学校、地域が連携して人権教育に取り組み、すべての人が自分らしく生きることのできる南あわじ市であってほしいと願う。

